

辰  
詳述  
正

# 西史學要

卷三

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
歷史科學		門
北アメリカ州史		部
阿利加象國誌	總記	項
輿圖	年表	次
全	冊ノ内第	冊
分類 番號	第	號
253.03		8

T 1A.1  
24  
W 35

西史要卷三

米國 烏斯多爾原撰

日本 和久正辰譯述

西里亞史

セローシツド統ノ宰治

(一) アレキサンドル大帝ノ殂スルヤ將帥アン

チゴニウス亞細亞ニ據ルセロークスアンチゴ

ニウスヲ撃チ遂ニ巴比倫ヲ略スセロークス亦

タアレキサントルノ將帥ニシテヒリツプノ將

帥アンチオチウスノ子ナリアンチゴニウスア

イテレウスニ戰テ敗死シセロークスノ勢威大ニ定マル是ニ於テ西里亞ノ國基ヲ創ス西里亞一ニシロメデアト名ク其存立二百四十七年ニシテ即チセクロース巴比倫ヲ略取スルノ時ニ始マリ西里亞ノ羅馬ニ隸屬スルノ日ニ終ル其間列王相繼ク二十三世之ヲセロークス統ト爲ス國祖セロークスノ名ニ因ルナリ

(二) セロークスハ武功顯赫治績大ニ舉リ國民敬服ス二十三戰連捷ノ偉績アルヲ以テ羸主ノ名アリ大都ヲ開創スルモノ十六アంతチオチ

セロークスアバメア及ビラオディセアノ如キ最モ顯著ト爲ス就中アంతチオチハ西里亞ノ首府ニシテ宏大壯麗ヲ極ム故ニ之ヲ名ケテ東方ノ女王ト云フ又々之ヲ耶蘇教門ノ眼目ト名ク蓋シ耶蘇ノ徒弟嘗テ此地ニ住シ迹ヲ此地ニ發シタルヲ以テナリ

(三) セロークススレーノ王ライシマチウスヲ擊テ大ニ之ヲ破ルライシマチウス之ニ死ス幾モナクブトレミシセラニウスセロークスヲ暗殺シ後チ馬基頓ニ王タリセロークスノ子ア

シチオウス、ソートル位ヲ繼クゴールス族小亞細亞ニ入テガラチアノ國基ヲ立テタルハ實ニ其在位ノ年間ニアリトス

(四) 後チアンチオチウス、ソートルノ後嗣アンチオチウス、ソース及ビセロークス、カルリニクスノ世ヲ治ムルニ及テ朋黨並ビ起リ戰亂連ニ至リテ天下寧日ナシバルシア及ビパクトリアノ居民亂ヲ作スガ如キ其最タルモノナリ

(五) アンチオチウス大帝ハセロートリッド統中ノ英主ナリ在位三十六年才徳功業共ニ世ヲ益

フト雖モ過失不幸マタ少シトヤス一勝一敗遂ニ諸州ノ叛牧ヲ鎮壓シ餘勇ヲ賈リテ埃及王ヲトレミートラピアニ戰ヒ大ニ敗ル後チメティアバルシアヒルカニア及ヒ印度ニ轉戰シテ大ニ克ツ

(六) カルサギニアノ豪將ハンニバルアンチオチウスヲ訪ヒ説クニ伊太里ニ入テ羅馬人ヲ擊ツノ事ヲ以テス而シテアンチオチウス伊太里ヲ征ヤスシテ希臘ニ入り羅馬人ト戰テ大ニ敗レ力窮テ亞細亞ニ退クスシピオ、アシアチツク

ス羅馬ノ兵ヲ督シテ之ヲ追撃スアンチオチウス途ニマグ子シアノ曠野ニ戰テ大ニ敗レ竟ニ膝ヲ屈シテ和ヲ請フニ至レリ後チアンチオチウス其武官ノ殺ス所ト為ル

(七) 其子セクロース、ヒロバートル及ヒアンチオチウス、エビハ子スハゼロセルムノ聖廟ヲ犯シテ之ヲ掠奪シ猶太ノ祭儀ニ從テ神ヲ拜スルヲ禁ス是ニ於テジウタス、マツカバウス猶太人ヲ將テ叛シ大ニアンチオチウスノ軍ヲ破ルアンチオチウス大舉シテ一擊猶太全國ヲ殲滅

セント欲シ未タ手ヲ下サズ變ニ遇テ卒ニ殞ス  
(八) 是ヨリ後チセロシツド統列王相繼キ國ヲ治ムル數世其間國中詭譎風ヲ為シ暗殺跡ヲ接シテ戰亂止ムナレ紀元前六十五年ポンパノ是國ヲ征服スルニ至テ竟ニ羅馬ニ隸屬シ西里亞國亡フ

西里亞セロシツド統列王略譜

紀元前三百十二年セロークス第一世ニカール  
全二百八十三年アンチオチウス第一世ソール  
全二百六十一年アンチオチウス第二世ゾース即位ス



最モ久シクブトレミース統ノ之ヲ治ムルモノ  
連綿二百九十三年即チアレキサンドルノ殂落  
ヨリクレオパトラノ遠逝ニ至ル之ヲ其國沿革  
史中ノ顯世トス

(二) ブトレミー、ラギウスハ馬基頓王ヒリツプ  
ノ庶子ニシテアレキサントル大帝ノ異母兄弟  
ナリラキウス一ニソートルト名クアレキサン  
トルノ殂スルニ當テ埃及ニ主宰タリ馬基頓帝  
國四分ノ後チ是國ニ君臨ス在位三十九年隆盛  
日ニ加ハル其人ト為リ英明ニシテ武功政績共

ニ天下ニ冠絶シ學識亦タ博達ニシテ大ニ文學  
ヲ勸獎ス

(三) プトレミーラギウスハ彼ノ有名ナルアレ  
キサントリアノ圖書館ヲ創立シ又タ學院ヲ設  
ケテ珍品異物ヲ蒐集シ博士ヲシテ之ニ寄寓セ  
シメ且ツハロース島ノ望樓ヲ建設ス人或ハ之  
ヲ寰宇七奇ノ一ト為ス其他新都ヲ開キ衰府ヲ  
興シ運河ヲ疏通シテ舟行ヲ便ニシ通商農業ヲ  
獎勵シテ埃及ノ隆盛ヲ復シ遂ニ西里亞ヲ略ス

(四) プトレミーソートルノ次子プトレミー、ヒ

ラデルフス位ヲ繼クヒラデルフス父王ノ遺業  
ヲ承ケカヲ公益ニ盡ス在位ノ間百事隆興シテ  
國勢大ニ振フ府城ヲ各處ニ開キテ峻宇壯殿ヲ  
徑營シ運河ヲ開鑿シテスエスヨリナイル河ニ  
達セシメ以テ航程ヲ開キ通商ヲ盛ニス當時是  
國在廷ノ諸臣學藝禮節天下ニ比ナク實ニ文物  
ノ淵藪タリセオクリチウス等ノ如キ即チ其著  
名ナルモノトス舊約全書ヲ希臘語ニ譯シテ之  
ヲ七十士譯舊典ト名ケ以テアレキサントリア  
移住ノ猶太人ニ讀マシメタルガ如キ亦タヒラ

デルフス在位ノ時ニ在リ

(五) 其子プロトレミー、イーブルガートス位ヲ繼  
ク武ヲ好ミ國ヲ興シ兼テ學藝ヲ勸奨ス位ニ即  
クノ始メ西里亞ノ王安チオチウスト戰テ之  
ニ克ツ戰後出征相踵ク會イーブルゲートス師  
ヲ出シテ外ニ在リ其后バレニス凶報ノ訛傳  
ヲ聞キ驚愕措カス偏ニ王ノ安穩ナランヲバ  
ニウス神ニ祈リ親ラ誓ヲ為シテ曰ク神モシ我  
願ラシテ成ルアラシメバ髮ヲ剪テ其祠堂ニ獻  
セント



(六) 當時埃及ノ婦人其髮ノ絶美ナルト其深ク  
良人ヲ愛スルノ記標タルトノ故ヲ以テ之ヲ尊  
重スル殊ニ甚シ後チ未ダ幾ナラス偶秘函ノ髮  
ヲ失フ星學士コノン確言シテ曰ク是レ果シテ  
穹蒼ニ昇テ天上ノ列星ト為ルト監守之ニ因テ  
其刑ヲ免ル

(七) プトレミー、イーフルゲイトスノ子プト  
レミー、ヒロパートル繼テ立ツ性殘忍人ヲ殺ス  
ラ嗜ム在位ノ間猶太人ヲ虐スル殊ニ酷シヒロ  
パートル嘗テゼルサルムニ在リ猶太人建ツル

所ノ神廟中靈聖犯ス可カラスト為シ唯タ一年  
一回祭司長ノ之ニ入ルヲ得ル處アリヒロバト  
トル強テ之ニ入ラント欲ス猶太人固ク之ヲ拒  
ムヒロパートル大ニ怒リ去テ埃及ニ歸リ數世  
寛仁ノ德澤ニ浴シタル猶太人ヲ虐シテ其警ヲ  
報セントス

(八) ヒロパートル令ヲ發シ國內居住ノ猶太人  
ヲシテ盡ク其宗教ヲ放棄セシム命ニ從テ反教  
スル者僅ニ九百余名是ニ於テ更ニ令ヲ出シテ  
レキサンドリア在住ノ猶太人ヲシテ公遊場ニ

會合ヤシメ竊ニ五百頭ノ象ヲ集メテ之ヲ蹂殺  
セシメントス象怒リ却テ觀客ノ群中ニ突入シ  
之ヲ殺ス其數遙ニ猶太人ノ上ニ出ツ而メ是時  
猶太人ノ命ヲ喪フモノ全府四萬人ナリト云フ  
(九) ブトレミース統ノ國ヲ治ムルヤ其第三世  
ニ至ルマテ歲ヲ經ル一百余年之ヲ是國隆盛ノ  
極度トス爾後歷世罪惡禍害交至リ天下幾ンド  
寧日ナシ

(十) 埃及 ブトレミース統ノ列王其姓氏ミナ同  
シト雖其副号各相異リテ體格性行ノ彼此同

シカラサルヲ示ス第一ヲプトレミー、ソートル  
ト ソートルハ救主ノ義ナリローディアノ人民  
嘗テ其保庇ヲ受ケ恩ニ感シテ此名ヲ命ス第二  
ヲプトレミー、ヒラデルフ スト スヒラ デルフ ス  
ハ友愛者ノ義ナリ其ノ嘗テ人ヲシテ兄弟二人  
ヲ殺サシタルノ惡行アルヲ以テ時人譏刺シテ  
之ヲ名ク第三ヲブトレミー、イール ゲート ス  
ト スイール ブルゲート スハ恩主ノ義ナリ嘗テカ  
ンビセス携ヘ去ル所ノ偶像ヲ埃及ニ回復シタ  
ルノ功アルヲ以テ此名アリ第四ヲプトレミー

ヒロパートルトスヒロパートルハ愛父者ノ義ナリ國民其ノ嘗テ父ヲ弒シタルノ行跡アリト為シ嘲テ之ヲ名ク第五ヲプロレミー、エピハ子ストスエビハ子スハ顯彰ノ義ナリ在位ノ間王權微弱振ハサルヲ以テ反テ此稱アリ第六ヲプロレミー、ヒロメートルトスヒロメートルハ愛母者ノ義ナリ常ニ其母ヲ憎ミタルノ故ヲ以テ國民賤テ之ヲ名ク第七ヲプロレミー、ヒスコントスヒスコンハ便服ノ義ナリ其體狀醜怪ナルヲ以テ此稱アリ第八ヲプロレミーラシリウストス

ラスリウスハ鷄豆ノ義ナリ其鼻頭ニ豌豆ノ如キ肉瘤アルヲ以テナリ第九ヲプロレミー、アウレツトストスアウレツトスハ吹笛者ノ義ナリ(土) 最後ノ王ヲプロレミー、デイニシウストス十三歳ニシテ位ヲ繼キ其妹クレオパトラヲ娶テ后ト爲スクレオパトラハ雄略容色ヲ以テ著ハル人ヲシテ良人ヲ殺サシメ遂ニ自ラ政權ヲ專有ス而シテ其事歴ゼリウス、セーサル及ヒマク、アントニーノ行跡ト相連關スルモノ多シ後チ自ラ毒蛇ニ觸レテ殂ス其ノ俘囚ト為リテ羅

馬ニ護送セラレオクタビウスノ凱旋ヲ装フノ  
具ト爲ルヲ欲セサレハナリクレオパトラ己ニ  
殂スルノ後チ埃及竟ニ羅馬ノ所轄ニ歸ス實ニ  
紀元前三十年ナリ  
(三) 當時埃及ノ國風ソノ娣妹ヲ以テ后ト為ス  
プトレミース統ノ王后ニシテアルシノイベル  
ニス及ヒクレオパトラノ名アル者ノ如キ是  
ナリ才藝絶倫一世ニ冠タル者マタ少シトヤス  
埃及プトレミース統列王略譜  
紀元前三百二十三年プトレミース、ラギウス即位ス

全	位	全	位	全	位	全	位	全	位	全	位	全	位	全	位	全	位	全	位	全	位	全	位
二	百	六	十	三	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ヒ	ラ	デ	ル	フ	ス	即					
二	百	四	十	六	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	イ	ー	ブ	ル	ゲ	ー	ト					
二	百	二	十	一	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ヒ	ロ	バ	ー	ト	ル	即					
二	百	八	十	四	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	エ	ビ	ハ	子	ス	即						
二	百	八	十	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ヒ	ロ	メ	ー	ト	ル	即						
百	七	十	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ヒ	ス	コ	ン	即	位	ス							
百	七	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ラ	ス	リ	ウ	ス	即	位	ス							
百	一	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ア	レ	キ	サ	ン	ド	ル	即	位	ス					
百	一	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ア	レ	キ	サ	ン	ド	ル	即	位	ス					
八	十	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ア	レ	キ	サ	ン	ド	ル	第	二	世					
八	十	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ア	レ	キ	サ	ン	ド	ル	第	二	世					
六	十	五	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ア	ウ	レ	ツ	ト	ス	即	位	ス					
六	十	五	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ア	ウ	レ	ツ	ト	ス	即	位	ス					
五	十	一	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ア	ウ	レ	ツ	ト	ス	即	位	ス					
五	十	一	年	ブ	ト	レ	ミ	ー	、	ア	ウ	レ	ツ	ト	ス	即	位	ス					
三	十	八	年	末	王	ク	レ	オ	パ	ト	ラ	第	二	世	即	位	シ						
三	十	八	年	末	王	ク	レ	オ	パ	ト	ラ	第	二	世	即	位	シ						

古事記  
卷之十一  
十一

羅馬史

第一章 紀元前七百五十三年ヨリ

五百九年ニ至ル

(一) 羅馬ハ上古史中四大古國ノ末位ニ在リ希臘ヲ征服スルノ後チ屹然隆興ス初メ最爾タル一小國タリシカ國勢漸ク加ハリテ幾ント字内ヲ統轄シ板圖ノ廣大ナル兵力ノ精強ナル政府ノ安固ナル前古ソノ比ヲ見サル所ナリ而シテ其史記事變大故及ビ俊傑名士ノ事跡ニ富ム故ニ後ノ治ヲ施シ學ヲ修ムル者何レノ國何レノ

世ト雖氏其考案立論ノ正確ヲ表スルニ之ガ事實ヲ引證セサルナキノミナラズ其一盛一衰必ス當時古大國ノ事跡ト並行相依ルモノ多シ

(二) 列王相繼テ世ヲ治メ降テ共治政體ノ初年ニ至ルマテ其版圖僅ニ羅馬府城ノ周圍十五英里乃至二十英里ニシテ開府以來四百余年ノ間境域最モ狹シ厥後國勢進興シテ疆土日ニ加ハリ紀元前五十年ニ及テ字内苟モ文明ノ名アルモノ幾ント其所轄ニ歸シ綿々相繼テ第五世紀ニ至ル是時ニ當テ邦土漸ク分裂シ其紀末ニ及

テ西帝國竟ニ亡フ東帝國ハ第十五世紀ノ中コ  
ロトルクス族ノコンスタンチノツプルヲ占取  
スルニ至テ絶滅ス

(三) 羅馬上世ノ歴史ハ其記事往々怪妄ニ屬シ  
其正確ト稱スルモノト雖モ猶且ツ信ヲ措キ難  
キモノ多シ其第三四世紀ニ至ルマテ史上ノ記  
事真偽錯雜是非混同ス蓋シ上世ノ史家羅馬ノ  
事跡ヲ記シ其書今ニ於テ猶ホ存スト雖氏其起  
筆流行實ニ羅馬府城開創ノ後チ六百余年ニ在  
リ其ノ希臘ヲ征服スルニ至ルマテ羅馬人ハ曾

テ文藝ヲ修メシナク古代ノ記録石碑ノ如キ  
紀元前三百九十年ゴールス族ノ府城ヲ燼滅ス  
ルニ當テ盡ク烏有ニ歸シ且ツ傳説ニシテ其上  
世ノ事跡ニ係ルモノ正史ノ體裁ヲ存スルナク  
概チ妄誕不經ニ屬スレバナリ

(四) 羅馬七王ノ世ヲ治ムルヤ其間歲月ノ久シ  
キ事跡ノ詳ナル得テ知ル可カラスト雖氏其中  
三四人ハ弑虐ニ遇ヒ一人ハ國外ニ謫流セラレ  
其在位ノ長短ヲ均算スレハ大約三十五年ニシ  
テ之ヲ各國事跡ノ最モ明白ナル王代ノ平均年

月ニ比スレバ幾ント二倍ノ長キニ及フ  
 (五) 人或ハ云フ羅馬史中上古ノ記事ニシテ以テ  
 眞ト為ス可キモノ多カラストセズ然リト雖  
 氏因テ以テ其正確ヲ證スルノ材料マタ未タ輒  
 ク信ス可カラサルヲ奈何セン況ンヤ傳説記事  
 ノ一目瞭然ソノ虚誕タルヲ了得スベキモノニ  
 於テオヤト此言誠ニ是ナリ彼ノロムリウス及  
 ビゼリウス、セーサルノ行跡ノ如キ史編傳フル  
 所彼此紛々適從スル所ヲ知ラズ殊ニ王政ノ起  
 源羅馬ノ七王共治政體ノ初年ノ事跡ニ至テハ

其記事最モ怪妄ニ属シ其傳説概テ羅馬國民固  
 有ノ虚傲ヲ表シ人ヲレテ一讀嘔ヲ思フニ至ラ  
 シム  
 (六) 詩人ノ説ク所ニ從ハハトロイノ皇子アイ  
 子アス兵燹ヲ避ケテ伊太里ニ至リラチンス族  
 ノ王ラチニウスノ優待ヲ受ケ遂ニ其女ヲ娶テ  
 位ヲ繼ク是ヨリアイ子アスノ後裔連綿相承ケ  
 世ヲ治ムル幾ント四百年ソノ第十五世ノ王ヌ  
 ミトルノ時ニ至テ熄ム  
 (七) スミトルノ女レアシルビア一産二子ヲ生

ム長ヲロムリウスト云ヒ次ヲレミウスト云フ  
ロムリウス及ビレミウス共ニ一府ヲ開カント  
欲シ中道ニシテ相讓ラス互ニ權ヲ争フロムリ  
ウス遂ニレミウスヲ殺ス府成ル名ケテ羅馬ト  
云フ其名ロムリウスニ取ルナリロムリウス撰  
ハレテ王ト為リ好テ流浪ノ徒ヲ招撫ス一日盛  
宴ヲ張テ公衆ヲ集メサビナノ婦女ヲ謀リ誘フ  
國人各之ヲ擄獲シテ其家ニ歸リ納レテ婦ト為  
ス

(八)

ロムリウス民種ヲ分テ三族二等トス等ニ

縉紳平民アリテ每族十部ヲ以テ成ル百名ノ代  
議士ヲ集メテ元老院ヲ開キ後チ之ヲ増員シテ  
二百名トス始メ專ラ其代議士ヲ縉紳ニ取ル後  
チ平民ヲシテ被撰ノ權ヲ同フセシム然レ氏兩  
等相依リ自ラ主從ノ倫ヲ成サシム平民ハ縉紳  
ニ就テ各其主トスル所ヲ擇ブノ權アリ而シテ  
之ガ主ト為ル者ハ從者ノ身ヲ保護シテ他ノ暴  
虐抑制ヲ受クルヲナカラシムルノ義務アリ故  
ニ從者ハ其勞ニ服シテ其恩ニ報ユ

(九)

國王關外ニ出ツレハ必ス十二名ノ前驅ア



リ常ニ軍鉞ヲ携テ之ニ扈從ス且ツ騎兵三百人  
ヲ以テ護衛ト為ス此レ所謂ル武臣ナルモノナ

リ  
(十) ヌマホンピリウス撰ハレテ羅馬第二世ノ

國王ト為ルヌマハサビナノ人キウルス府ノ産  
ナリ其府民ヲクイリラース族ト名ク後チ之ヲ  
以テ羅馬ノ府民ヲ汎稱スヌマ人ト為リ沈重温  
和ニシテ俛焉學ヲ好ミ德行特ニ著ハル治績大  
ニ舉リ民利國益ヲ興スモノ少シトセズ人民ヲ  
シテ修技遵法ノ心志ヲ養成セシメ兼テ信教ノ

精神ヲ發揚シ以テ其勇猛激烈ノ性質ヲ感化セ  
シム且ツジヤニウスノ神廟ヲ建設シテ戰時ニ  
ハ之ヲ開キ平時ニハ之ヲ閉ツ

(十一) チユリウス、ホスチリウスヲ羅馬第三世ノ  
王トス性勇敢ニシテ武ヲ好ム嘗テアルバト兵  
ヲ構ヘホラツチー族トキユリアツチー族ヲシ  
テ格闘セシム兩族合セテ其數六人ニシテ二女  
ノ生ム所各同胞三人ナリホラツチー族ハ羅馬  
ノ為ニシキユリアツチー族ハアルバノ為ニス  
ホラツチー族遂ニ嬴チ羅馬人ヲシテアルバラ

征服スルヲ得セシム然レ氏兩族五人ミナ死シ  
生存スルモノ唯ホラツチ一族ニ一人アルノミ  
(三) 又マノ孫アンキユス、マルチウスハ第四世  
ノ王ナリラチンス族ヲ征服シタイバル河口ニ  
オスチアノ港ヲ築造ス

(五) タルクイニウス、ブリスキユスハ一ニタル  
クイン長老ト名クコリンスヨリ來レル一商人  
ノ子ナリ撰ハレテアンキユス、マルチウスノ位  
ヲ繼ク危閣高樓ヲ鱗列シ道路橋梁ヲ改修シテ  
府城ヲ妝飾ス且ツ石壁ヲ築キ戲場ヲ開キ大廟

ヲ建テ及ビ大渠ヲ掘鑿シテ府内ノ汚水ヲタイ  
バル河ニ流注セシメ以テ滯滯浸溢ノ患ナカラ  
シム

(六) セルビウス、チユルリウスハタルクインノ  
女婚ニシテ一女俘ノ子ナリ前王ノ晏駕ニ當リ  
自ラ王位ニ登ラント欲シ遂ニ其姑ノ力ニ由リ  
テ王位ヲ占有スルヲ得タリ民籍法ヲ制定シテ  
每五年ノ末人口戸數童貞財額ヲ審明シ之ヲ卒  
ル毎ニ必ス贖罪ノ祭ヲ行フ故ニ其五年ヲ名ケ  
テ五年期ト云フ

(五) セルビウスニ二女アリ長ハ温良貞順ニシテ少ハ稟性傲慢志望遠大ナリセルビウス其位ノ安固ヲ計リ之ヲシテ先王タルクインノ二子タルクイン及ビアルンスニ妻ハセント欲ス二子其性各相異ナリテ恰モ夫ノ二女ノ品質ニ適合セリセルビウス見ル所アリ長女ヲ天稟暴烈ノタルクインスニ嫁シ幼女チユルリアヲ賦性溫柔ノアルンスニ妻ハシ以テ彼此ノ性情ヲ中和シ相互ノ短所ヲ補充センメントス而シテ未タ幾ナラスタルクイン及ビチユルリアハ各其

配偶ヲ殺シテ相結婚シ終ニ人ヲシテセルビウスヲ弑センム是ニ於テタルクイン王位ヲ僭奪スチユルリア欣喜措カズ行テ之ヲ賀セント欲シ勿々輦ヲ馳セテ途ニ其父ノ屍ヲ轢過セリト云フ

(六) タルクインハ傲主ノ綽号アリ〔原〕拉典語ニイニウ、スツパテ之ヲタルルブスト云フ位ニ即クノ始メ首位ノ元老數名ヲ殺シ施治極メテ暴虐ナリ民心之ガ爲ニ離畔ス其子セキスチユス陽ニ交誼ヲ表シテタルクインノ外甥コルラチニウスノ家ニ至リ其妻ル

クレチアヲ辱シムルタレチアハ才色共ニ絶倫ノ婦人ナリ即チ使ヲ發シテ其夫及び其父ヲ招クタルクイン長老ノ孫ジュニウス、ブリウチユス其他二三ノ交友亦タ之ト共ニ至ルルクレチア潜然狀ヲ陳ヘテ仇ヲ報センヲ請ヒ自ラ又ニ伏シテ死ス

(十七) ルクレチアヲ葬ムルキ枢方ニ方街ニ至ル衆民之ヲ觀テ復讐ノ念忽チ動クブルチユスマタ大ニ之ヲ勸ム元老院乃チ其罪ヲ鳴ラシテタルクインヲ王位ヨリ擯ケ遂ニ族ヲ舉ケテ之ヲ

國外ニ放ツタルクイン一タビ京城ヲ逐ハレテヨリ其兵士盡ク離背シ遂ニ復タ入ルヲ得ス是ニ於テ連綿二百四十四年ノ王政竟ニ絶ユ

第二章 紀元前五百九年ヨリ四百四十九年ニ至ル

(一) 王權廢レテ共治政體立ツ而シテ大權ナホ元老院及ヒ人民ニ屬スト雖氏終身在職ノ攝政官ヲ廢シテ二人ノ大憲コンシールスヲ置キ每歲之ヲ縉紳中ニ撰舉シ以テ政務ヲ幹理セシム其職幾ント國王ニ均シク唯在任ノ期一年ニ止マルノミブリ

ウチユス及ヒコルヲチニウス始メテ其選ニ中  
 ル曩ニ暴君虐吏ヲ逐フニ方テ共ニ大功アリ  
 (二) 是時ニ當テタルクインエトルリアニ在リ  
 バイー及ビタルクインニ一ノ二府ヲ誘説シテ  
 我ニ與セシメ又遠ク羅馬ノ人心ヲ攬ル殊ニ少  
 壯ノ縉紳ニシテ共治政體ノ質素嚴肅ナルヲ悦  
 バス王室昔日ノ華奢壯榮ヲ慕フモノ竊ニタル  
 クインニ黨スル多シ終ニ之ニ應シ以テ復舊ノ  
 謀ヲ為ス而シテ事發覺スブリッテユスノ子二人  
 ソノ謀ニ與カルブリウチユス即チ其罪ヲ紕彈

シ斬ニ處ス自ラ蒞ンテ刑ヲ視ル補色自若タリ  
 古代ノ著者之ヲ評シテ曰ク拒レ父子ハ私情ヲ  
 絶テ大憲ハ公任ヲ行ヒ刑律ヲ假スヲ為サズシ  
 テ擇テ子ナキニ就キタリト  
 (三) 羅馬府ノ内應已ニ獲ラル是ニ於テタルク  
 イン全ク望ヲ外援ニ屬シ兵ヲ舉ケテ來リ逼ル  
 大憲バレリウス及ヒブリウチユス羅馬ノ兵ヲ  
 將ヒ邀ヘ戰テ大ニ之ヲ破ル〔原〕バレリウスハコ  
 ルヲ承ケタブリウチユス之ニ死ス羅馬ノ姪婦之  
 ヲ聞キ一週年間喪服ヲ著シテ哀ヲ表スバレリ

ウス敵ニ克テ揚々府城ニ歸ル之ヲ是國凱旋ノ  
盛典ヲ行フノ嚆矢トス

(四) バレリウス功ニ誇リ民望ヲ失フバレリウ  
ス之ヲ覺リ旋ヤ民望ヲ回復セント欲シ一法例  
ヲ發シテ已キ法官ノ斷案宣告ヲ受ケタル者ヲ  
レテ更ニ之ヲ公衆ニ控訴スルノ權ヲ得セシム  
之ヲ控訴公審法ト云フ即チ名ヲバレリウスニ  
取ルナリ之ヲ羅馬ノ共治政體ニ於テ縉紳ノ權  
ヲ殺クノ第一歩トス

(五) タルクインノ國ヲ放タレテヨリ以來戰亂

相踵クモノ茲ニ十三年而シテ事ミナタルクイ  
ンノ復位ニ係ル就中エトルリアノ兵ト戰フガ  
如キ怪勇記不可キモハ多シホラチユスコツク  
ルスノ單身橋頭ニ立テ敵兵ノ進撃ヲ遮止シム  
チウス、スセボラ變服シテ敵營ニ入りエトルリ  
ア王ボルセンナヲ刺サントシタルカ如キ特ニ  
世ニ著ハル然レ氏和議終ニ成リテ交戦一タヒ  
息ム

(六) 戰亂未タ全ク已マサルニ内訌忽チ起リ國  
將ニ危カラントスタルクインヲチンス族ヲ説

テ我ニ與セシメ自ラ兵ヲ將テ府城ニ逼ル當時  
 庶民概子貧困ニシテ負債ニ苦ミ呼嗟道ニ滿ツ  
 其言ニ曰ク元老院モシ我儕ヲシテ富豪ニ對シ  
 テ負債償還ノ義務ヲ免レハムル莫クンバ斷然  
 敵ヲ攘フノ舉ニ從事スルヲ欲セサルナリト大  
 憲之ヲ奈何トモスル能ハス蓋シ曩ニ控訴公審  
 法ヲ發シテ己ニ法官ノ斷案宣告ヲ受ケタル者  
 ラシテ更ニ其不當ヲ公衆ニ控訴スルノ權利ヲ  
 得サシメタルヲ以テナリ

(七) 是時ニ當テヤ非常ノ果斷ヲ行フニアラス

ンハ以テ此厄ヲ濟フ可カラス因テ更ニ全權總  
 領ヲ置キ之ニ委ヌルニ無上ノ權力ヲ以テシ任  
 期ヲ國難未定ノ間トスルモ六月ヲ越ヘサルヲ  
 限トス此官職ハ一國危急ノ秋ニ際シ神速ノ果  
 斷ヲ要スルノ日ニ於テ之ヲ置ク和戰ヲ決シ租  
 稅ヲ課シ百官ヲ任シ及ヒ元老院若クハ人民ニ  
 議セスレテ法律ヲ停止スルノ權ヲ有スルモノ  
 ナリ大憲ノ一人チチユースラルチウス此選ニ  
 中ルチチユースラルチウス人ト為リ沈毅度量  
 アリ乃チ大軍ヲ募リ著々度ヲ失セズ以テ平定

ノ功ヲ奏シ悠然冠ヲ挂ケテ高踏ス而シテ未タ  
幾ナラス戰亂マタ起ルタルクインス黨ノ鼓動  
スル所ナリ是ニ於テポスシウミウス全權總領  
ト為ル羅馬ノ兵全勝ヲ占メタルクインノ子數  
名之ニ死ス

(八) タルクインノ黨類已ニ絶ヘ天下一タビ昇  
平ニ復ス而シテ内訌四ニ作り民間貸借ノ争マ  
タ漸ク崩ス庶民戰已ニ起ルヲ聞クモ兵役ニ服  
シテ國ヲ守ルヲ肯ンセス常ニ相語テ曰ク敵ハ  
緘束ヲ受クルモ國人ハ抑壓ヲ蒙ルモ苦ハ一少

ハミ我ニ於テ何かアラン宜シク縉紳ヲシテ戰  
鬪ハ危險ニ當ラシムベシ蓋シ戰勝ハ報ヲ享ル  
者ハ獨リ縉紳ナレハナリト然レ氏縉紳ノ庶民  
ヲ抑制スル前日ニ異ナル所ナキヲ以テ兵士ミ  
ナ其指揮官ヲ捨テ相率テ羅馬府ヲ退キモン  
サ一セルニ據ル地羅馬府ヲ距ル三英里許ニ在  
リ人民大半之ニ應ス

(九) 元老院警ヲ聞テ大ニ懼レ聲望アル者十人  
ヲ拔撰シ救解ノ事ヲ辨セシム是ニ於テ庶民ノ  
決意斷行遂ニ其志ヲ達スルヲ得タリ元老ノ



ニウス、アグリツパ彼ノ有名ナル腹肢ノ諭言ヲ引テ之ヲ諭ス衆大ニ感動シテ事乃チ平ク終ニ庶民ノ負債ヲ蠲キ且ツ官吏ヲ其等位中ニ取ルノ權利ヲ得セシメ以テ將來ノ安固ヲ證ス此職ヲ保民官ト名ケ政府ノ措置苟モ庶民ニ害アリト認ムルモノアレバ一言以テ之ヲ破毀スルノ權アリ毎年更ニ之ヲ撰任ズ始メ其定員ヲ五名トシ後チ増員シテ十人トス縉紳ノ威權ヲ制限シ庶民ノ暴橫ヲ調停ス又更ニ二名ノ監工官ヲ置キ保民官ヲ輔佐シ兼テ公宇營繕ノ事ヲ掌ラ

シム

(十) 曩ニ叛兵ノ亂アリテヨリ以來國中耕種ヲ顧ミス米粟匱乏衆庶ノ擾動滋甚シ會西細里島穀ヲ羅馬ニ輸シ一時為ニ急ヲ免ル是時ニ當テコリオラツトニウスナル者アリ智勇兼子備ハリ嘗テホルスシ一族ヲ伐テ大ニ功アリ常ニ縉紳ノ權勢ヲ擴張セント欲ス乃チ策ヲ獻シテ曰ク今モシ元老院ハ權ヲ復シ保民官ハ職ヲ廢スルニアラスンハ決シテ一粒粟モ之ヲ民ニ頒ツ可カラスト是ニ於テ民心大ニ激ス保民官コリ

オラツトニウスヲ認メテ罪アリト為シ衆議終  
 ニ之ヲ無期流刑ニ處スコリオラツトニウス去  
 テホルスレハ族ニ投シ自ラ之ヲ督シテ來リ攻  
 ム一時羅馬ノ勢殆ント危シ其母妻切ニ其非ヲ  
 説キ終ニ之ヲシテ戈ヲ伏シ兵ヲ收メシム  
 (土) 是ヨリ先キ略取ノ地ハ衆民ノ公有タリ而  
 シテ今均田アウラヤンコーノ法ヲ發シテ之ヲ民間ニ等分セン  
 ト欲シ貧富ノ間忽チ爭論ヲ生ス是レ庶民ノ大  
 ニ望ム所ニシテ縉紳ノ痛ク欲セサル所ナレバ  
 ナリ故ニ此法ヲ立ツルノ前屢此策ヲ提出シテ

為ニ物議ノ激昂ヲ致セシト少シトセス  
 (土) 保民官ボルエ口法ヲ立テ保民官ヲ撰舉シ  
 及ヒ樞要ノ公務ヲ討議スルハ民族ヲ以テ開ク  
 所ノ公會ニ於テシ復タ前日ノ如ク百人部センチヤース并ニ  
 卅分キユリ一部ヲ以テ立ル所ノ公會ニ於テスルヲ許  
 サス是ニ因テ大權全ク縉紳ヲ離レテ庶民ニ歸  
 シ羅馬ノ政體一變シテ民政ト為ル  
 (土) 均田ノ法ヲ行ハント欲シテ為ニ内訌ヲ醸  
 シイクイー及ビボルスレハノ二族境ヲ侵シテ  
 國已ニ危シシナコスナル者アリ田畝ニ

西史要 卷之三  
舉ケラレテ政府ニ立チ全權總領ト為ルヲ前後  
二回ニ及ベリ大ニ敵軍ヲ破リ燦然凱施ス既ニ  
シテ冠ヲ掛ケテ其草廬ニ退隱シ悠々耕耘ニ從  
事ス

(五) 是ヨリ先キ羅馬國中未タ一部ノ成文律ア  
ラス王政ノ時ニ當テ國王親ラ訟ヲ聽キ後チ大  
憲ノ政ヲ執ルニ及テ大憲之ヲ審理ス而シテ其  
處置往々擅横ニ出テ怨言街ニ滿ツ是ニ於テ人  
ミナ成文ノ法典ヲ制定シテ其權利ヲ保安セン  
ヲ欲スル日ニ急ナリ官乃チ三人ノ視察委員

ヲ希臘ニ差遣シソロンノ法律及ヒ其他制法ノ  
參考ニ便ナルモノ數種ヲ携ヘ歸ラシム

(六) 視察委員ノ國ニ歸ルヤ首要ノ元老十人ヲ  
撰任シ名ケテ<sup>シニク</sup>什官ト曰フ任スルニ法典制定ノ  
事ヲ以テシ期一年ノ間之ヲ實踐セシム是レ彼  
ノ有名ナル十二表法典ノ因テ起ル所ニシテ乃  
チ羅馬律例ノ基本ト為リ共治政體ノ昌盛ヲ極  
ムルニ及テ猶ホ大ニ行ハル

(七) 什官ノ職權ハ專決獨裁ニシテ在任ノ間百  
官ミナ其職ヲ罷ム而シテ輪流交迭各一日間其

首位ヲ占メテ大權ヲ執リ隨官之ガ職識ヲ捧持  
ス始メ一週年ノ間ソノ施治公正ニシテ節度アリ  
故ニ任滿ツルノ後チ更ニ復タ此職ヲ置ク而  
シテ未タ幾ナラス漸ク擅横ヲ極メ就中什官ノ  
首長タルアツピウスクロダイウスノ二大兇行ヲ  
以テ竟ニ此官職ノ廢絶ヲ速クニ至レリ

(七) アツピウスノ兇行タル其一ハ人ヲシテ羅  
馬ノ保民官シニウス、デンタチウスヲ刺サ  
シメ其二ハ少女ビルジニアニ對シテ醜行アリ  
シモノ是ナリシニウス、デンタチウスハ武

勇戰功卓然衆ニ起ヘ時人呼テ羅馬ノアチルレ  
スト云フビルジニアハ容色絶美前キノ保民官  
アイシリウスト已ニ婚約アリ一日ビルジニア  
公學ニ至ルアツピウス途ニ之ヲ見テ精神恍惚  
情火忽チ動キ策ヲ奸惡無賴ノ家僕ニ授ケ行テ  
之ヲ求メシム蓋シビルジニアヲ以テ家奴ノ生  
ム所ト誣ヒ之ヲ強奪セントスルナリ

(八) アツピウス家僕ヲシテ其真偽ノ判決ヲ乞  
ハシメ自ラ之ヲ審理ス而シテ純白罪ナキノビ  
ルジニアヲ其父母ヨリ奪フ其父ビルジニウス

愛嬢ヲシテ之ガ凌辱ヲ受ケシムルニ忍ビス自  
ラ短劍ヲ把テ之ヲ刺シ鮮血淋漓タル白刃ヲ揮  
フテ大聲疾呼シテ曰ク嗟乎アツピウスヨ此血  
ヲ以テ汝ガ首ヲ地獄ハ邪神ニ供セント府内ヲ  
狂走シ衆ヲ勵シテ仇ヲ報セントスアツピウス  
幾モナク獄ニ下テ自盡シ其他ノ什官ミナ國ヲ  
逐ハル是ニ於テ什官ノ職三年ヲ經テ竟ニ廢絶  
シ大憲ノ職舊ニ復ス

第三章

紀元前四百四十九年ヨリ二百  
六十六年ニ至ル

(二) 縉紳庶民ヲシテ更ニ相隔絶スルニ至ラシ  
メタルモノハ彼此ノ通婚ヲ禁シ及ビ大憲ノ職  
ヲシテ縉紳ノ專ラ任スル所タラシメタルノ二  
事ナリ厥後兩族權ヲ争フモノ數年終ニ其禁婚  
ノ令ヲ廢棄シ以テ民意ヲ達セシメント欲ス然  
リ而シテ民心之ガ為ニ却テ激昂シ罵々已マス  
以テ其公權ノ回復ヲ逼リ一朝國亂ノ起ルニ際  
スルモ前日ノ例ニヨリ其求ムル所ヲ達スルニ  
アラスンバ兵役ニ就カザルヲ主唱シ固執動カ  
ズ以テ之ガ復權ヲ計ルニ至レリ

(二) 縉紳庶民ノ權ヲ爭フヤ久シ終ニ大憲ノ職ヲ廢シ之ニ代フルニ更ニ六名ノ兵事保民官ヲ置キ其中三名ヲ縉紳ニ取り三名ヲ平民ニ舉ク然レ氏是亦タ久シカラスシテ廢セラレ大憲ノ職舊ニ復ス

(三) 内國擾亂相踵キ民數ヲ審査シ戶籍ヲ點檢スルニ違アラス是ニ於テ二名ノ視官ヲ置キ五年毎ニ民籍ヲ案シ兼テ衆庶ノ德義ヲ監察シ租稅ノ收額ヲ查覈セシム是ヨリ一百余年縉紳專ラ此顯要ニ任シ共治政體ノ末年ニ及テ大憲之

レヲ執リ後チ帝王之ニ當ル

(四) 人民往々兵役ニ服セサルノ弊習ヲ洗除セント欲シ元老院令ヲ發シ人民ヲシテ軍資ヲ負擔セシム是ヨリ以降羅馬ノ兵制面目ヲ改メ兵權全ク元老院ノ掌中ニ歸シ隨時之ヲ指揮スル意ノ如クナラサルナク施政ノ規模更ニ擴張シテ其功觀ル可キモノ多シ而シテ兵法ノ著ク改良ヲ加ヘ遂ニ其定業ト為リタルハ實ニ此時ニ在リ是ヨリ先キ羅馬ノ境域僅々數方里ノ地ニ止マリシモ日開月廣數年ヲ出テスシテ版圖大

二加ハル

(五) ベイノ府民ソノ區域人口共ニ敢テ羅馬ニ讓ラサルヲ以テ傲然之ニ對峙スル茲二年アリ而シテ頻ニ羅馬ノ版圖ヲ蠶食ス政府乃チ令ヲ發シ軍資ヲ顧ミス一擊之ヲ拔カント欲ス之ヲ圖ム十年荏苒決セズ互ニ勝敗アリ因テ終ニカミリウスヲ推シテ全權總領ト為シ軍事大小トナク舉テ之ニ委子以テ奮戰決闘ヲ試マシム

(六) カミリウス地道ヲ穿テ敵城ニ達セシメ潛行シテ兵ヲ府内ニ導キ毀掠ヲ縱ニシ遂ニ之ヲ

拔ク既ニシテカミリウスノ其國ニ凱旋スルヤ迎儀壯嚴威風凜々タリ白馬四頭ヲ以テ其車ヲ曳カシム後チ其賍物ヲ私スルノ誣告ヲ受クルニ方リ奮然トシテ國人ノ忘恩ヲ憤リ去テ他邦ニ之ク

(七) ゴールス族ハ兇暴禮ナク慄悍武ヲ嗜ムノ蕃民ナリ是ヨリ先キアルプス山ヲ橫斷シテ路ヲ開キ伊太里ノ北部ニ定住ス其王アレニウス之ヲ率ヒテエトルリアノ府城クルシウムヲ圍ム府民援ヲ羅馬ニ乞フ元老院乃チ縉紳ヲハビ

ウスノ類族三名ヲ擇テ之ガ使節ト為レブレミ  
ウムニ就テ其故ヲ問ハシテ曰ククルシウム  
ハ居民曾テ陛下ニ對シテ何等ハ罪ヲ犯セシヤ  
否敢テ之ヲ聞カンブレミス怫然之ニ答テ曰  
ク豪傑ハ權利ハ自ラ其劍ニ在テ存ス汝ヂ羅馬  
人ハ如キハ其曾テ征略セシ所ハ府城ニ就テ固  
有ハ權利アル者ニアラスト使節之ヲ聞テクル  
シウムニ入り府民ヲ援ケテ之ガ守防ヲ嚴ニセ  
シムブレミス憤激措カズ圍ヲ解テ羅馬ニ直  
進シアルリア河畔ニ戰テ大ニ羅馬ノ兵ヲ破ル

(八) 既ニシテゴールス族羅馬ニ闖入シ人ヲ屠  
リ財ヲ掠メ火ヲ縱チ墻ヲ壞リ更ニ進テ其政堂  
ヲ圍ム羅馬ノ兵奮戰之ヲ拒ク而シテゴールス  
族終ニ人蹤ノタルペアン巖頭ニ印帶スルヲ檢  
出シ夜ニ乘シテ一隊ノ兵ヲ發シ哨兵ノ熟睡ヲ  
窺ヒ遂ニ其頂ニ攀登ス此時ジユノーノ神廟ニ  
於テ鷲群驚キ叫ヒマルクス、マンリウスノ眠ヲ  
破ルマンリウス蹶起シ即チ哨兵ト力ヲ協セ敵  
兵ヲ巖下ニ擲落セシム

(九) 是ヨリ以降ゴールス族侵略ノ念漸ク衰ヘ



終ニ秤量一千磅ノ黄金ヲ得ハ府内ヲ去ル可キ  
ヲ約ス然リ而シテ黄金既ニ至ル量ルニ偽秤ヲ  
以テス羅馬人其非ヲ責ムレモ聽カズ恬然侮慢  
ノ色アリ是時ニ當テカミリウス已ニ衆望ヲ復  
シ再ヒ全權總領ト為ル恰モ好シ兵ヲ率ヒテ府  
關ニ在リ此事情ヲ聞キ兵士ニ令シテ其黄金ヲ  
政堂ニ復致センメ且ツ之ニ退兵ヲ命シテ曰ク  
羅馬ヲ贖フ須ク鋼錢ヲ以テスベク黄金ヲ以テ  
スベカラザルナリト是ニ於テ兵双立口ニ交ハ  
ルゴールス族一敗地ニ塗ル時人カミリウスヲ

仰敬シテ國父ト名ケ且ツ羅馬第二ノ開祖ト爲  
ス厥後絶ヘテ外侵ノ患ナク府城一タビ焦土ニ  
歸シタリト雖モ幾モナクシテ遂ニ其隆盛ヲ復  
スルニ至レリ  
(十) マンリウス武功ヲ以テ賞ヲ享ク已ニ優渥  
ナリ然リ而シテ猶且ツカミリウスノ聲名ヲ猜  
ミ終ニ逆ヲ謀ル事忽チ發覺シ謀反ヲ以テ論セ  
ラレタルペーシ巖頭ヨリ投殺スルノ刑ニ處セ  
ラル即チ其曾テ榮光ヲ得タルノ地却テ刑ヲ受  
ケ辱ヲ蒙ルノ處トナレリ

(土) 當時伊太里ノ南部ニサムニートス族ナル  
モノアリ險ヲ冒シ難ニ堪ヘ好テ山ニ據ル其地  
甚タ廣シ羅馬ノ兵戈ヲ轉シテ之ヲ伐ツサムニ  
ートス族慄悍善ク戰フ五十余年ヲ經テ纔ニ之  
ヲ夷クサムニートス族羅馬ノ兵ヲコーヂウム  
ノ近傍コトチニールキユルニ破リ戈ヲ樹テ  
以テ軼ニ擬シ其下ヲ通過セシム羅馬人以テ大  
辱ト爲シ報仇ノ念勃々止ム能ハス乃チパピリ  
ウス、キユルソルヲ全權總領ニ任シ翌年ニ及テ  
大ニサムニートス族ヲルーセリアニ破リ之ヲ

辱シムルニ戈軼ヲ以テスル亦夕前ニ同シ後チ  
フハビウス、マキシムス及ヒデシウスノ力ニヨ  
リ終ニ之ヲ征服ス

(土) マンリウス、トルクオチウスノ大憲ノ職ニ  
在ルヤ會羅馬人ヲチンス族ト戰フマンクウス  
兩軍ノ容裝相似タルヲ以テ戰ニ臨テ彼此混同  
ノ患ナカラシメント欲シ乃チ令ヲ下シテ曰ク  
苟モ隊列ヲ脱スルモハ其罪必ス死ニ該ルト  
既ニシテ兩軍相對シテ將ニ戰端ヲ開カントス  
ヲチンス族ノ將帥メチウス單身格闘ヲ挑ム大

憲ノ子チチウス、マンリウス挺進之ヲ斃スマン  
リリス乃チ之ヲ斬ニ處シ軍法ヲ正スラチンス  
族敗レテ終ニ降ル

(三) タレンチニース族ナルモノアリ曾テサム  
ニトス族ト結盟事ヲ謀テ成ラス而シテ令援  
ヲエピウリスノ王ピルリウスニ乞フピルリウ  
ス乃チ兵三萬人象二十頭ヲ率ヒテタレンチウ  
ムニ上陸ス大憲レビニウス羅馬ノ兵ヲ督シテ  
之ニ當ル國人未ダ象ト戰フノ法ヲ知ラス初戰  
先ツ敗ル兵ヲ亡ヲ一萬五千人ヒルリウスノ兵

死傷マタ多シピルリウス自ラ悟ル所アリ竊ニ  
左右ニ告ケテ曰ク果シテ知ル他日必ず敵兵ハ  
我ニ勝ツ亦タ斯クハ如クニシテ朕ヲシテ轅ヲ  
エピリウスニ還サシムルハ事アルベシト而シ  
テ又大ニ敵軍ノ武勇ヲ感賞シ慨然トシテ歎シ  
テ曰ク嗚呼羅馬人ヲシテ朕ガ兵タラシメ朕ヲ  
シテ臣レガ王タラシメバ宇内ヲ併吞スル何ハ  
難キトカ之レアラント此言永ク人口ニ膾炙ス  
(四) 戰焰正ニ熾ナルニ方テピルリウスノ侍醫  
書ヲフハブリシウスニ寄セテ曰ク予モシ恰當

ハ報賞ヲ得バ能ク手カラビルリウスヲ毒殺セ  
 ントフハブリシウス後チ將帥ト爲リ羅馬ノ兵  
 ヲ督ス大ニ此言ノ卑劣ナルヲ忿リ即チ之ヲピ  
 ルリウスニ通スピルリウス其ノ大度ナルニ感  
 激シ疾聲叫テ曰クフハブリウスヲハテ正道ヲ  
 誤リ氣節ヲ失セシムルノ難キハ天日ヲシテ倒  
 ニ轉ラシムルノ比ニアラスト終ニ悉ク羅馬ノ  
 俘囚ヲ放チ贖ヲ求メス以テ其胸量ノ濶大ナル  
 彼レニ劣ルナキヲ示セリ

(五) 當時西細里島ノ人民加爾塞地ト戰フフハア

リウス兵ヲ收メテ伊太里ヲ去リ之ヲ援フ後チ  
 復ヒ來リ逼リ竟ニキウリオスデンタチウスト  
 バチベンチウムニ戰テ全敗シ退テ國ニ還ル而  
 シテ羅馬人再ヒサムニートス族ト戰テ之ヲ破  
 リ遂ニ下部伊太里全州ヲ統轄ス

第四章 加爾塞地并ニ西細里記事

(一) 今夫レ羅馬ノ史記正ニ加爾塞地及ビ西細  
 里ノ記事ト聯串交渉スルニ至レリ因テ茲ニ此  
 二國ノ沿革ヲ略叙セントス

(一) 加爾塞地ハ紀元前幾ント九百年デットナ

ルモノタイルノ移民ヲ率ヒテ来リ住シ國基ヲ  
創ス初メ君主政體ナリシガ後チ共治政體トナ  
レリ是レ古賢アリストールノ獎賛スル所ニ  
係ル總管二人ヲ撰任シ名ケテ審事ト云フ毎年  
之ヲ民族ノ高等ナル者ニ取ル宗教ハ殘忍刻薄  
信奉スル所迷妄不經ナリ神ヲ祭ル二人ヲ以テ  
犠牲トス

(三) 羅加兩國ノ戰ヲ交ユルヤ當時加爾塞地ハ  
通商繁盛貨財充溢シ都府ノ壯麗ナル宇内ニ冠  
タリ而シテ其版圖亞弗利加ノ沿岸地中海ニ濱

スルノ地ニ於テ三百有余ノ小都アルノミナラ  
ス西班牙并ニ西細里等ノ大半ヲ占有シ金坑ヲ  
西班牙ニ拓クニ至ル國民專ラ商業ニ從事スル  
ヲ以テ自ラ飾詐ノ通弊ナキ能ハス羅馬人常ニ  
之ヲ憎テ不義無恥ノ國民ト爲シ人ノ信義ナキ  
ヲ目スルニ嘲テ加人<sup>カニツク</sup>ノ信ト云フニ至ル

(四) 加爾塞地ハ史編載スル所碩學良工ニ乏シ  
名士ハンノ海ヲ航シテ自ラ其行ヲ紀スアリ以  
テ當時敢為險行ノ盛ナルヲ証スルニ足ル此國  
マタ將士ノ名アルモノ多シハミリカルアスド

ルバル及ヒハンニバルノ如キ是ナリ就中ハンニバルハ羅馬國未曾有ノ強敵ナリ

(五) トロイノ役未タ作ラサルノ前肥尼細亞人西細里ニ移住シ其後希臘人マタ此地ニ移住ス西細里島中大都星散ミナ頗ル富榮ヲ極ム就中シラキウスノ如キ人烟稠密通商繁盛ソノ規模ノ大ナル遙ニ希臘諸都ノ上ニ出ツ古林斯人ノ開創スル所ナリ初メ西細里島中自餘ノ諸都ト同ジク民主政體ナリシガ後チ終ニ政權一人ニ歸ス

(六) 其王セロンハ有徳ノ君主ナリ史編永ク芳名ヲ傳フ然レハ爾後暴君虚主相繼テ作り人民其苦ニ堪ヘズ遂ニ王政ヲ廢スルニ至ル是ヨリ六十年ヲ經テ政權マタ俊傑ディオニシウスノ掌中ニ歸スディオニシウス創業ニ易クシテ守成ニ苦シム其子ディオニシウスゼ・ユンダ冲王優柔恒ナク虐政ヲ行フ古林斯ノ名士チモレオン其民ヲ援ケテ之ヲ廢黜シ古林斯ニ流スディオニシウス冲王窮苦此地ニ客死ス

第五章 紀元前二百六十四年ヨリ百

三十三年ニ至ル

(一) 羅馬人已ニ下部伊太里ヲ略ス而シテ望蜀ノ念ナホ已ム能ハス銳意他邦ヲ侵掠セント欲ス是ヨリ先キ羅馬人海軍ヲ出シテ侵掠ノ功ヲ奏シタルヲナク固ヨリ一隊ノ戰艦アルヲナシ是時ニ當テ加爾塞地ノ強盛ナル其勢羅馬ト相伯仲シ海軍ノ威力ニ至リテハ天下比ナシト稱ス地中海中苟モ商都ノ名アル者ミナ之カ抑制ヲ受ケサルナシ加之ナラズ國人金銀貨財ニ富ム羅馬人ハ其富之ニ及ハスト雖片愛國ノ精神

剛毅ノ氣象遙ニ其右ニ出ツルヲ以テ侵掠ノ念太々熾ナリ

(二) カムパニアノ居民マメルチニース族會シテラキウスノ虐主ハエロト戰フ羅馬人之ヲ援ケ初メ加爾塞地師ヲ出シテシラキウスヲ援ケ終ニ羅馬ト兵ヲ構スルニ至ル之ヲ名ケテ第一加國ノ役ト云フ當初羅馬加兩國ノ戰端ヲ開クヤ其目的止タメツセナヲ掠有シテ其海峽ノ督權ヲ得ント欲スルニ在リ而シテ終ニ西細里全島ノ治權及ヒ沿海ノ所轄ヲ爭フニ至レリ

(三) 是時ニ當テ羅馬人銳意以テ海務ノ擴張ニ從事ス偶加爾塞地ノ船舶暴風ニ逢ヒ海岸ニ飄到ス乃チ之ヲ以テ造艦ノ摸本ト為シ二月ヲ出テスシテ粗製ノ戰艦一百余艘ヲ備ヘ以テ一團ノ艦隊ヲ編成ス大憲ドイリウス之ガ提督タリ大ニ加爾塞地ノ水軍ヲ破リ其戰艦五十艘ヲ奪フ之ヲ開戦ノ端緒トス後チ幾モナクシラキウスノ兵戈ヲ倒ニシテ羅馬ト合從シ加爾塞地ノ所轄アグリゼンチウムヲ略ス

(四) 羅馬ノ海軍漸ク其勢力ヲ加ヘ戰艦ノ數三百余艘ニ至ル西細里ノ海岸ニ於テ再ヒ大ニ加爾塞地ノ水軍ヲ破ル加軍和ヲ請フ聽サス大憲レクリウス即チ一隊ノ兵ヲ將テ亞弗利加ノ海岸ニ上陸シ加爾塞地ノ兵ト戦テ之ヲ破リ勇往直進シテ城下ニ逼ル斯巴爾多人エキサンシピウス加爾塞地ノ軍ヲ督シテ邀ヘ戦フレグリウス一敗俾ト為ル後チ加爾塞地ノ使節ト共ニ和ヲ議セントシテ羅馬ニ艦送セラル發スルニ先ダチ和議モシ成ラズンバ復ヒ還リテ囚人タルノ誓約ヲ為サシメタリレグリウス竊ニ以為ラ



ク和議固ヨリ本國ノ利ニアラスト切ニ其非ヲ  
説ク終ニ加爾塞地ニ歸リ殘刑ニ處セラレテ死  
ス  
(五) 羅加兩國西細里ニ戰フ久シ互ニ勝敗アリ  
然レ氏全勝遂ニ羅馬ニ歸ス加爾塞地ノ軍屈シ  
テ和議ヲ約シ償金三千二百(タール)トヲ出シ  
咸ク其俘囚ヲ解テ西細里島ヲ去ル是ニ於テ西  
細里竟ニ羅馬ニ属ス但タシラキウスノ猶ホ獨  
立自治ヲ保持スルアルノミ此役終ルノ後チ羅  
馬人シサルピン、ゴールヲ略取ス

(六) 羅加兩國ノ平和ヲ保ツモノ二十三年コノ  
間警クジヤニウス神ノ廟門ヲ閉ツヌマノ治世  
以後無キ所トス  
(七) 第一加國ノ役ニ當リ加爾塞地ノ將ハミリ  
カル大ニ功アリハミリカルハハンニバルノ父  
ナリ幼ナルヨリハンニバルヲ訓練シテ兵事ニ  
熟達センメ且ツ永ク羅馬ノ讐敵タラントテ誓  
言セシムハンニバル兵事ニ長ス二十六歳ニシ  
テ舉ケラレテ加國ノ元帥タリ後チ羅馬ノ同盟  
國西班牙ノ都城サクンチウムヲ圍ム之ヲ第一

加國ノ役ヲ開クノ端緒トス環攻七月都民遂ニ  
其支フ可カラサルヲ知リ火ヲ城市ニ縱チ自ラ  
焔中ニ投シテ死ス

(八) 是ニ於テハンニバル勇氣更ニ加ハリ鋒ヲ  
轉シテ伊太里ヲ伐タント欲ス險ヲ冒シ難ニ堪  
ヘ軍ヲ率ヒテピレニース山ヲ越ヘ又タアルプ  
ス山ヲ過キ大ニ敵兵ヲ破ル前後四回ナリ始メ  
チレニウス山畔ニスレピオヲ破リ次ニセン  
ロニウスヲトレビア山邊ニ退ケ又次ニフ  
ニウスニスラレメニウスニ勝チ終ニエミリウ

ス及ヒバルローヲカンナニ追フ而シテ此終尾  
ノ大敗ノ如キハ羅馬人ノ未タ曾テ受ケサル所  
ニシテリビノ記スル所ニ從ヘバ羅馬兵ノ骨ヲ  
郊原ニ暴スモノ無慮五萬人ポリビウスノ說ニ  
據レハ其數七萬ニ下ラストス大憲エミリウス  
之ニ死シ羅馬ノ武紳五千乃至六千人ソノ中ニ  
在リハンニバル其金指環ヲ拾集シテ之ヲ加爾  
塞地ニ送致ス其量三籬ニ及ヘリト云フ  
(九) ハンニバルハ戰勝斯克ノ如ク其レ大ナリ  
ト雖此勢ニ乘シテ羅馬ニ直進スルヲ為サス

却テ兵ヲカプアニ駐メ荏苒冬ニ至ル兵ミナ盛  
都ノ華奢淫佚ニ惑溺セラレ身ヲ壞リカヲ喪フ  
ハンニバル乃チ賤セララル

(十) 是時ニ當テフハビウス、マキンミウス明達  
深慮アリ羅兵ヲ教導シ其カヲ協合スフハビウ  
ス及ヒマルセルス之カ元帥タリ時人フハビウ  
スヲ指シテ國盾ト云ヒマルセルスヲ呼テ國劍  
ト名クハンニバル好運已ニ去リカンナノ戰ア  
リテヨリ以來伊太里ニ在ル十三年戰功見ル可  
キモノナシノラヲ圍ミマルセルスノ打拒スル

所ト爲リ兵ヲ亡フ酷ク衆シ殘兵苦戰マタフハ  
ヒウスノ破ル所ト爲ル

(十一) シラキウス曾テ加爾塞地ト同盟合從スル  
ヲ以テマルセルス繞圍之ヲ攻ム彼ノ有名ナル  
數學士アルチメードス智略アリ城兵禦キ支フ  
ル三年竟ニ降ルシラキウス是ニ於テ絶滅シ西  
細里島中羅馬所屬ノ一部ヲ成スハンニバルノ  
兄弟アストルバル西班牙駐在ノ加軍ヲ將ヒ大  
舉シテ伊太里ニ入ル大憲リピー及ヒ子口羅馬  
ノ兵ヲ督シテメトーリウス河畔ニ迎ヘ戰ヒ大

ニ之ヲ破ルメトーリウス河ハ注テタイルレー  
シ海ニ入ル

(三) スレピオ後チアフリカニウスノ綽号アリ  
己ニ西班牙ヲ征服シ羅軍ヲ將テ亞弗利加ニ航  
シ勇擊疾攻遂ニ加爾塞地ノ城墻ヲ壞ル加人已  
ニ國ノ安危且夕ニ迫ルヲ知リ遽ニハンニバル  
ヲ伊太里ヨリ招還ス是ニ於テハンニバルスレ  
ピオト各其軍ヲ將テ大ニザマノ曠原ニ戰フ加  
軍全敗シ和約即チ成ル其條款ニヨレハ加爾塞  
地ハ西班牙西細里其他地中海中ノ諸島ヲ割キ

悉ク其俘囚ヲ放還シ戰艦十艘ノ外總テ其艦隊  
ヲ交付シ及ヒ將來モシ兵ヲ動カスノ事アルモ  
羅馬ノ允准ヲ受クルニアラサレバ能ハサルモ  
ノトス是ニ於テ加爾塞地孰竟ニ挫ケ十七年ヲ  
經テ第二加國ノ役終ル

(三) 後チハンニバル國ヲ去リ萍踪流轉餘生十  
三秋ヲ西里亞及ヒ比細厄亞ノ間ニ送ル一時ス  
レピオト地ヲ同フレテ居ル交厚シ屢相會語ス  
一日スレピオハンニバルニ問テ曰ク足下ハ何  
人ヲ以テ絶世ノ雄將ト為スヤハンニバル答テ

曰クアレキサンドル其人ナリ蓋シ小兵ヲ以テ能ク大軍ヲ破リ天下大半ソノ蹂躪ヲ受ケサルナシスレピオ其次ヲ問フハシニバル曰クピルリウス是レナリ其ノ布營ノ良法ヲ創始セルヲ以テナリ營地ヲ相シ護兵ヲ配スルノ方略ニ於テ天下何人カ其右ニ出テシスレピオ又ソノ次ヲ問フハシニバル曰ク予ニ非スメ誰ソスレピオ之ヲ聞キ笑テ曰ク果シテ然ラハ足下モシ能ク予ニ克チタラシニハ足下ハ自ラ何レノ地位ニ在リト爲スカハシニバル曰ク天下ノ萬

將ニ論ナクアレキサントルピルリウスト雖モ豈ニ能ク予ト肩ヲ比スルヲ得ンヤ  
(五) 加爾塞地ト戈ヲ交ユルノ時ニ當リ羅馬人マタ馬基頓ヲ伐ツ之ヲ第一馬國ノ役ト名クサイノセパールノ戰ニ於テ其王ヒリツプ敗蹟シ役終ル後チ幾モナクスレピオ一隊ノ羅軍ヲ將テ西里亞ヲ擊チマグ子シニアニ戰テアシチオチウシス偉王ヲ破ル此時スレピオアシチツクスノ綽号アリ而シテ第二馬國ノ役起ル其末王ペルシウスピドナニ戰テ軍敗ル馬基頓竟ニ羅馬

西史卷五 卷之三 四

ニ屬シ役乃チ熄ム

(五) 第。二。加。國。ノ。役。ソ。ノ。局。ヲ。結。テ。ヨ。リ。以。來。幾。ン  
ト。五。十。年。ニ。迄。ヒ。努。美。尼。亞。人。ソ。ノ。境。ヲ。侵。ス。加。人  
之。ヲ。逐。フ。羅。馬。人。之。ヲ。以。テ。約。ヲ。破。レ。リ。ト。為。シ。第。  
三。加。國。ノ。役。ヲ。開。ク。ノ。口。實。ヲ。搆。ヘ。以。テ。加。爾。塞。地  
ヲ。剽。滅。セ。ン。ト。欲。ス。當。時。視。官。ポ。ル。シ。ウ。ス。ケ。ー。ト  
權。勢。ア。リ。能。ク。元。老。院。ノ。議。決。ヲ。左。右。ス。早。ニ。加。國  
ノ。剽。滅。ヲ。企。圖。シ。日。常。演。壇。ニ。上。ル。每。ニ。必。ス。加。國  
亡。サ。ハ。ル。可。カ。ラ。ス。ノ。語。ヲ。以。テ。說。ヲ。結。ヒ。タ。リ。シ  
ト。云。フ

(六) 加人其力ノ羅鋒ニ抗ル可カラサルヲ知リ  
平身低頭ソノ要ムル所ニ應シ心已ニ羅馬ノ隸  
屬タルヲ諾セントス戰艦兵器軍糧ノ如キ盡ク  
之ヲ羅軍ニ交付ス而シテ羅軍マタ開城ヲ促ス  
蓋シ之ヲ壞滅セント欲シルナリ城民之ヲ聞キ  
忿ヲ發シテ復タ生ヲ思ハス自立ノ氣象未  
タ全ク消盡セサルヲ以テ奮起敢テ其暴令ニ從  
フヲ為サス寧口死ヲ決シテ生命ヲ犧牲ニ供セ  
ント欲スルニ至レリ

(七) 加軍決死之ニ抗ル三年府城竟ニスレピオ

第ニアフリカニウスノ攻略スル所ト為ル羅軍  
火ヲ城市ニ縱チ熾煙天ヲ蔽フ十有七日加爾塞  
地ノ府城一發焦土ト為リ城墻壞レ屋宇燬ケ居  
民死スルモノ七十萬ソノ降ル者或ハ亂刀ノ下  
ニ屠戮セラレ或ハ熾中ニ投殺セラル其慘狀ノ  
見ルニ忍ビサル羅將スレピオノ如キ者ニシテ  
且ツ為ニ一掬ノ淚ヲ灑クニ至ルリト云フ  
(六) 慘行ヲ為ス已ニ斯クノ如クナリト雖氏猶  
憚ラス此年マタ古林斯ヲ略シ希臘ヲ取ル後チ  
數年西班牙ノ努曼智亞ヲ圍ミ激攻猛擊遂ニ之

ヲ抜ク

第六章 紀元前百三十三年ヨリ六十

三年ニ至ル

(一) 從來羅馬人風俗殘忍常ニ出征ヲ事トスト  
雖氏公心世ヲ憂ヘ私行奢侈ヲ慎ム但タ文事ヲ  
修メ學術ヲ研クカ如キ僅ニ其跡ヲ存スルニ過  
キス其ノ希臘ヲ征服スルヤ文藝學術ヲ引入シ  
來リ始メテ開明ノ曙光ヲ發ス之ヲ其國文運ノ  
紀元トス外交已ニ開ケ外貨漸ク入ルニ及テ華  
奢淫佚ノ風マタ隨テ至ル

(二) 是時ニ當テ羅馬ノ勢威四境ヲ壓シ鋒鏑ノ向フ所戰必ス克タサルナク遂ニ加爾塞地ヲ滅シテ復タ南顧ノ患ナシ既ニシテ全ク外患ノ跡ヲ絶ツニ方リ内訌漸ク萌シ國內分裂ス擾搖多年一起一倒竟ニ共治政體ノ解壞ニ至テ止ム

(三) チベリウス、グラツチユス及ヒカイウス、グラツチユスハ同胞一姓ノ兄弟ニシテ共ニ雄辨ノ士ナリ夙ニ民權家ヲ以テ名アリ國人敬服ス其兄チベリウス職保民官ニ在リ銳意以テ縉紳ノ權カヲ抑制シ兼テ制田ノ法ヲ復シテ其田産

ヲ制限セント欲ス此法ニヨレハ何人ト雖凡一名ニシテ五百畝以上ノ公田ヲ所有スルヲ許サ、ルモノトス然リ而シテ其極終ニ亂ヲ生シチベリウス同志三百人ト共ニ公館ニ於テ元老ノ殺ス所ト爲ル

(四) 其弟カイウス敗報ヲ聞キ豪氣却テ加ハリ飽マテ兵力ヲ以テ人民固有ノ特權ヲ維持シ元老院ノ侵佔ヲ挫折セント欲ス然レモ亦タ不幸ニシテ黨類三千人ト俱ニ羅馬ノ街頭ニ於テ大憲オピミウスノ屠ル所ト爲ル



(五) マシニツサノ孫ヅユグルサ其ノ從弟ヘン  
 プサール及ヒアドヘルバルヲ滅シテ努美泥亞  
 ノ王位ヲ僭奪セント欲スヘンプサール及ヒア  
 ドヘルバルハ共ニ亦タマシニツサノ孫ニシテ  
 先王ミシブサノ子ナリジユゲルサヘンプサー  
 ルヲ殺スアドヘルバル適レテ羅馬ニ至リ援ヲ  
 請フ元老院己ニジユグルサノ賂ヲ受ケ請ヲ容  
 レス國上ヲ二分シテ各其一部ヲ有セシム而シ  
 テジユグルサアドヘルバルト戰フアドヘルバ  
 ル敗死シジユグルサ遂ニ全國ヲ掌握スト雖凡

爲ニ羅馬人ノ攻撃ヲ來タスニ至レリ

(六) 羅馬兵ヲ發シテジユグルサヲ討ツ始メメ  
 テリウス之カ提督タリ後チ名将マリウス繼テ  
 之ヲ督シ大ニジユグルサヲ破ルニ回ジユクル  
 サヲ擄ニ就キ羅馬ニ鎖致セラレテ其凱旋ヲ装フ  
 ノ具ト爲リ終ニ獄中ニ餓死ス後チマリウス羅  
 軍ヲ將テチウトニス族及ヒシングリー族ヲ  
 伐チ大ニ之ヲ破ル斬戮太タ多シ

(七) 伊太里ノ諸州會盟聯結シテ羅馬ニ叛シ以  
 テ民權ヲ拈取セント欲ス是ニ於テ戰亂マタ起

ル之ヲ閱。牆ノ亂ヲ開クノ端緒トス。交戰數年死  
者三十余萬終ニ歸服法ニ遵フノ國人ヲシテ咸  
ク民權ヲ得セシムルニ至テ亂乃チ熄ム

(八) ポンチユスノ王ミスリデートスハ勢威東  
方ニ冠タリ亦タ武事ニ卓絶ス夙ニ東北ノ諸國  
ヲ聯結シテ親ラ之ヲ督シ以テ伊太里ヲ蹂躪セ  
ント欲ス一日ニシテ羅馬人ノ小亞細亞ニ在ル  
モノ八萬余人ヲ屠ル之ヲ開戦ノ端緒トス後チ  
幾モナク希臘ヲ伐ツ史編之ヲ特筆シテミスリ  
デートスノ役ト名ク羅馬ノ名將シルラルクリ

ウス及ヒポンペー相踵テ大ニ功アリ

(九) シルラハ俊才武勲ノ士ナリ曩ニ閱牆ノ亂  
ニ方テ大ニ功アリ今マタカムパニア屯營ノ兵  
ヲ督ス政府之ヲシテミスリデートスヲ討ツノ元  
帥タラシムシルラ顯族ニ出ツ最モ元老院ニ名  
望アリ其對手マリウスハ農家ニ生レ常ニ爵政  
ヲ排撃ス故ヲ以テ民間ニ愛重セラル當時其齡  
已ニ古稀ニ及ヒ五十年來智略戰功共ニ著ハレ  
凱旋ノ榮儀ヲ享ルニ田大憲ノ顯職ニ任スル六  
田ナリ然リ而シテ青雲ノ志ナホ未タ滿タサル

所アリシルヲ黜ケテ自ラ兵馬ノ總權ヲ執ラ  
ント欲ス

(十) シルラノ之ヲ聞クヤ蹶起劍ヲ拔キ兵ヲ率  
テ遽ニ羅馬ニ入り元老院ヲ圍ミ之ヲ強迫シテ  
マリウスヲ國賊ト為スノ告諭ヲ發セシムマリ  
ウス遁レテ亞弗利加ニ至ル是ニ於テシルラ復  
ヒ兵ヲ將テミストリテトスノ役ニ就クシナナ  
ル者アリ銳意マリウスニ黨ス竊ニ兵ヲ募テマ  
リウスヲ招還ス慄悍斬戮ヲ縱ニシ勝ニ乘シテ  
遂ニ羅馬ニ入り盡ク首要ノ元老ヲ殺シ兇暴殘

戮至ラサルナシ既ニシテマリウス及ヒシナ  
自ラ公告シテ共ニ大憲ト稱シ毫モ撰任ノ儀例  
ヲ用ヒス而シテ未タ幾ナラザルニマリウス死  
シシナ亦タ尋テ殺サル

(十一) シルラ既ニミストリテ破リ兵ヲ將  
テ伊太里ニ歸リ羅馬ニ入ル即チ又大ニ屠戮ヲ  
縱ニシ伊太里國中曾テ苟モ己レニ敵スル者ヲ  
殲盡シテ殘ス無カラント欲ス既ニシテ全權總  
領ノ永職ニ任シ羅馬ノ府民ヲ殺サシム源血滿  
街看ル者戰慄ス而シテ未タ三年ヲ出テス何ソ

圖ラシテ竟ニ其職ヲ辭シボテオリノ別墅ニ退  
隱シ常ニ放佚無頼ノ徒ヲ友トシ間亦タ文事ヲ  
修メ以テ殘年ヲ送ル黨讐共ニ駭然タリ其ノ卒  
スルヤ葬儀壯嚴墓碑美ヲ極ム生前自ラ碑銘ヲ  
草ス其文ニ曰ク余ヤ自ラ稱シテシルラ幸人ト  
名ク蓋シ畢生ノ間友ニハ善ヲ以テ優リ敵ニハ  
惡ヲ以テ優ルト是ヨリ先キシルラノマリウス  
ト相闘クヤ羅馬ノ府民命ヲ亡フモノ十有五萬  
ソノ中元老二百人大憲ノ職ニ任セル者二十三  
人アリ

(三) シルラ卒スルノ後チ舊証マタ起リ朋黨ニ  
派ニ分ル大憲カチユリウス及ヒレピダスノ二  
人各之カ首領ト為リ互ニ黨勢ヲ張リレピダス  
マリウスノ黨威ヲ保持シ雄將セルトリウスマ  
タ之ヲ贊ク是ヨリ先キセルトリウス兵ヲ將テ  
遠ク西班牙ニ在リ自ラ別ニ一共治國ヲ立テ孤  
軍羅馬ニ叛スル數年勇奪善ク戰フ後チ終ニペ  
ルバルナノ殺ス所ト爲ル

(三) 是ヨリ二年ノ間闔國マタ奴亂ノ禍ヲ受ク  
スバルタキコスノ鼓動スル所ナリスバルタキ

ユスハトレリスノ産ニシテ元ト牧羊ヲ業トス  
闘囚ト爲リテ父シクカピアニ抑留セラルル一朝  
其拘束ヲ脱シ奴軍ヲ募テ自ラ之ヲ督シ國中ヲ  
蹂躪ス終ニクラツシウスト戰テ其ノ軍全敗シ  
兵士四萬人ヲ喪フ

(五) スパルクキユス敗滅ノ後チ未夕數年ヲ出  
テスシテカチリンナルモノ主倡ト爲リ陰ニ逆  
ヲ謀ルカチリン才智俊秀勇氣衆ニ超ヘタリト  
雖厄窮乏産ナク故縱自ラ棄ツ而シテ其計畫ス  
ル所全國竊動時ヲ同フシテ起リ一瞬ニシテ火

ヲ羅馬府内ノ各處ニ亂放シカチリン自ラ兵ヲ  
將テ一蹶之ヲ拔キ盡ク其元老ヲ殺戮セントス  
ルニ在リ

(五) 恰モ好シ未夕其密計ヲ果サスシテ事已ニ  
發覺シ國人幸ニ其殘虐ヲ免ル大憲シセロ著々  
精ヲ盡シ遂ニ之ヲ夷クシセロ夙ニ羅馬ノ雄辯  
大家ヲ以テ稱セラルカチリン兵一萬二千ヲ募  
リシセロト戰テ敗死シ全軍マタ珍盡ス

第七章 紀元前六十年ヨリ三十一年

ニ至ル

(一) ポンペーハ武功ヲ以テ著ハル故ニ偉人ノ  
 副号アリミスリデートスノ役ニ臨ミ元帥ノ職  
 ニ任シ遂ニ平定ノ功ヲ奏ス曩ニポンテユス  
 王ミスリデートス及ヒアルメニアノ王チグラ  
 ニースヲ破リ尋テ又夕西里亞及ヒ猶太ヲ滅シ  
 テ羅馬ノ所屬ト為ス其功顯赫國人敬服ス既ニ  
 シテ兵ヲ將テ國ニ歸ルニ方リ凱旋ノ榮儀ヲ享  
 ケ東方壯麗ノ掠貨ヲ車前ニ列テ揚々府門ニ  
 入ル群衆沓至シテ之ヲ觀ル喧填三日ニ及ヘリ  
 (二) 是時ニ當テ羅馬ニポンペー及ヒクラツシ

ユスノ二傑アリポンペーハ才智秀逸武名世ヲ  
 蓋ヒ衆望之ニ歸スクラツシユスハ多ク資産ヲ  
 有シ廣ク照顧ヲ行ヒ其氣質寛裕ナルヲ以テ著  
 ハル是ヨリ先キゼリウスセーサル軍功ヲ以テ  
 名アリセーサル幼ニシテ放佚肆行夙ニシルラ  
 ノ忌ム所ト爲ルシラ其英才ニシテ大志アル  
 ヲ看破シ竊ニ人ニ語テ曰ク予コハ一蓋子ハ胸  
 中ニ於テ百マリウスアルヲ看ルトポンペーク  
 ラツシユスト隙アリ互ニ治國ノ權ヲ争フセー  
 サル此間ニ來往周旋シテ遂ニ之ヲ調和ス而シ

テ三雄並立シテ治權ヲ三分シ相約シテ共ニ盟  
フ史上之ヲ稱シテ第一。三首政治ト名ク  
(三) 三雄各海外ノ属地ヲ分收シポンペドハ西  
班牙及ヒ亞弗利加ヲ得テ羅馬ニ在リクラツシ  
ユスハ擇テ西里亞ヲ取ル其富源比ナキヲ以テ  
ナリセーサルハコールヲ領シ且ツ其女ジユリ  
アヲポンペーニ妻ハシ以テ契約ヲ固フスクラ  
ツシユスバルジアヲ伐ツカルリーノ近郊ニ戰  
テ其將スレナノ破ル所ト爲リ竟ニ虜ニ就テ殺  
サル是ニ於テ兩雄專ラ國ヲ治ム是ヨリ先キジ

ユリア不幸ニシテ死シセーサルボンペーノ間  
絆縁既ニ絶ヘ兩雄漸ク忌疑ノ心ヲ生シ終ニ顯  
然相敵シテ各獨リ自ラ治權ヲ執ラント欲スル  
ニ至レリ

(四) 曩ニ三雄ノ海外ノ属地ヲ分取スルマセー  
サル遽ニゴールニ至リ之ヲ取ル當時ソノ地蕃  
族割據シ頗ル猖獗ヲ極ム而シテ概子未タ歸服  
セスセーサル向フ所前ナク八戰悉ク克ツ其ノ  
舉動殘忍兇暴至ラサル所ナシト雖氏口尚ホ仁  
義ヲ籍リ自ラ稱シテヘルバチー族及ビゼルマ

シス族ノ侵入ヲ禦テ土人ノ保安ヲ計ルト為ス  
セーサル武名顯彰衆望隨テ之ニ歸ス其ノ下ヲ  
待ツ寛裕ニシテ接遇温厚博ク衆ヲ慈ミ且ツ旗  
下ノ將卒曾テ軍ニ從テ危險ヲ共ニセルヲ以テ  
終ニ之ニ神事スルニ至ル

(五) セーサル出征ノ間ポンペー羅馬ニ在リセ  
ーサルノ名聲大ニ加ハルヲ聞キ驚懼措カス竊  
ニ其進路ヲ阻欄セント欲スセーサル任期ノ將  
ニ滿チナントスルヲ以テ猶ホ繼任センコトヲ元  
老院ニ請フ然レ氏元老ミナ己ニ心ヲポンペー

ニ寄セ固ヨリ其請ヲ容レズ是ニ於テセーサル  
意ヲ決シ兵力ヲ以テ之ヲ遂ケント欲シ内亂又  
隨テ至ル大憲及ヒ過半ノ元老己ニポンペーニ  
黨ス而シテ兵士ニシテ嘗テセーサルノ旗下ニ  
屬シテ戰功アルモノ及ヒ羅馬ノ府民ニシテ平  
素ソノ寛仁大度ナルヲ仰慕スル者ミナセーサ  
ルヲ賛ク

(六) 是ヨリ先キポンペー專ラ心ヲ治安ニ用ヒ  
股肱ノ州牧ヲ各地ニ派駐セリト雖レ未タ一隊  
ノ兵ヲ備ヘサルノミナラス又夕曾テ募兵ノ措



置ヲ爲シタルイナシシセロ其ノ緩急事ニ備フ  
ルノ放慢ナルニ恢キ卒然之ニ問テ曰ク足下ハ  
何ヲ以テセーサルニ當ルヤ敢テ其期スル所ヲ  
聞カンボンペー答テ曰ク予苟モ足ヲ舉クレバ  
招カスレテ兵立口ニ至ラント

(七) セーサル既ニ部下ノ兵士ヲシテ誠意盡忠  
ノ義ヲ誓ハシメ軍ヲ督シテアルプス山ヲ越ヘ  
ラベンナニ屯營ス而シテ書ヲ羅馬政府ニ寄セ  
テ曰クボンペーヲシテ其職權ヲ放棄セシムハ  
予マタ之ニ倣ハシムト元老院之ヲ聽サス乃

チ嚴諭ヲ發シテ曰ク汝セーサル須ク日ヲ期シ  
テ其治權ヲ擲却シ其部兵ヲ解散スヘシ若シ命  
ニ從ハスンハ將ニ國賊ヲ以テ之ヲ論セントセ  
ーサル怫然軍ヲ進メテルピコン河岸ニ至ル河  
自ラ伊太里トシサルピンゴールノ境界ヲ成シ  
即チセーサルノ治權ヲ際限スル處ナリ故ニ一  
旅ノ兵ト雖モ若シ之ヲ率テ此地ヲ過レハ元老  
院之ヲ目シテ其罪聖物ヲ瀆シ父母ヲ殺スニ該  
レリトスセーサル此名流ニ臨ミ自ラ其事業ノ  
大ニシテ結禍ノ慘慘ナルヲ豫想シ遂巡敢テ濟

ラス顧テ參將ボルリオニ謂テ曰ク予一鞭シテ  
 此河ヲ濟シハ其ハ國ニ災スルモハ果シテ如何  
 ツヤ若シ敢テ之ヲ過ルヲ為サズンバ予マタ其  
 慘状ヲ見ルナカラシト而シテ其言未タ畢  
 ラス疾聲呼テ曰ク穀子已ニ投セリト乃チ馬ヲ  
 怒ラシ河ヲ亂ル兵衆之ニ從フ

(八) 既ニシテ警報羅馬ニ達ス滿城戰慄人々手  
 足ノ措ク所ヲ知ラス府民ポンペーノ事ニ備フ  
 ノ緩慢ナルヲ責ムル急切ナリ元老某朝テ之ヲ  
 詰テ曰ク汝將ニ兵ヲ募テ之レヲ督セントスル

モ今ツハ兵ハ果シテ何クニカ在ル汝ヨク舉足  
 以テ兵ヲ徵ストセハ請フ試ニ予ラシテ之ヲ實  
 視センメヨトポンペー驚惶爲ス所ヲ知ラス是  
 ニ於テ府民大半已ニセーサルニ黨ス竊ニ以為  
 ク羅馬ニ於テセーサルニ抗ル不可ナリト兵ヲ  
 率テカピアニ至ル更ニ二隊ヲ加ヘ進テグラヂ  
 ウムニ達ス終ニ海ヲ超ヘテ馬基頓ノテララル  
 ウムニ上岸シ兵ヲ伊希兩國ノ間ニ募ラントス  
 大憲及ヒ元老大半之ニ從フ

(九) セーサル六十日ヲ出テスシテ伊太里ヲ戡

定シ踴躍羅馬ニ入ル衆庶喜ヒ迎ヘ喝采地ヲ動  
ス既ニシテ國庫ヲ奪ヒ首権ヲ執ル一人ノ敵ス  
ル者トシセーサル故ラニ寛大慈仁ヲ粧ヒ公然  
衆ニ諭シテ曰ク予ハ伊太里ニ入ルヤ羅馬府民  
ノ自由ヲ妨害セントスルハ意アルニアラズ但  
之ヲシテ其舊ニ復セシメ再ヒ之ヲ喪フハ恐レ  
ナカラシメント欲スルハミト駐留僅ニ數日ニ  
シテ西班牙ニ進軍シ大ニポンペーノ副將ヲ破  
リ遂ニ全國ヲ掌握ス其ノ羅馬ニ凱戦スルニ及  
テ府民ノ推ス所ト為リ全權総領兼大憲ノ職ニ

任ス

(十) 東方諸國ノ君主好ヲポンペーニ通シ軍資  
糧儲ヲ給スル優渥ナリ而シテポンペーノ軍已  
ニ多キヲ加フ時人以為クポンペーヲ援クルハ  
即チ其國ヲ援クルナリト顯族名士踵ヲ接シテ  
羅馬ヨリ來リ日ニ其軍ニ入ルモノ雲雨營ナラ  
ス一時ソノ營中ニ二百余名ノ元老アルニ至レ  
リ就中ニセロ及ヒケートノ如キ其一言ハ以テ  
一軍ヲ壓スルニ足ルモノナリ

(十一) セーサル羅馬ニ在ル僅ニ七日一戦以テ輸

贏フ決セント欲シ軍ヲ將ヒポンペーヲ追フテ  
 デルランチウムニ戰フポンペー之ニ贏チ兵ヲ  
 率テバルサリアノ曠原ニ至ルセーサル頻ニ大  
 戰ヲ挑ム既ニシテ遙ニ敵軍ノ來リ進ムヲ眺ミ  
 大聲疾ク呼テ曰ク噫嘻延頸機ヲ待ツ久シ時期  
 已ニ至ル請フ一蹴之ヲ破リ以テ前辱ヲ雪カン  
 ト此役ヤ人々刮目シテ其勝敗如何ヲ見ル蓋シ  
 兩軍ミナ天下ノ精兵ニシテ共ニ當世ノ雄將ヲ  
 以テ之ヲ師ト而シテ其争フ所ノ報賞タル唯是  
 レ羅馬一國ニ外ナラサレバナリ

(士) ポンペーノ軍ソノ數五萬余人セーサルノ  
 兵其半ハニ及ハスト雖凡其精練ニ至テハ遙ニ  
 之ニ優レリ而シテポンペーノ軍舉テ必勝ヲ期  
 シ將卒ミナ心ヲ獲財ノ分收ニ留メ絶ヘテ勝ヲ  
 制スルノ方略如何ヲ講スル者ナシ兵及已ニ交  
 ハル昧爽ヨリ晌午ニ至ルセーサル一戰遂ニ克  
 チ兵ヲ亡フ僅ニ二百人ポンペーノ軍死スルモ  
 ノ一萬五千人擄ニ就クモノ二萬四千ニ及ベリ  
 (三) 是ニ於テセーサル天下ニ示スニ天稟ノ慈  
 仁ヲ以テス故ニ其戰勝ノ功ハ博愛溫和ノ氣質

ヲ以テ忽チ幾層ノ華光ヲ加フルニ至レリ即チ  
元老及ヒ爵士數名ヲ赦スノ寛典ヲ行ヒ俘虜ヲ  
解テ直ニ部下ノ隊伍ニ入ラシムルノミナラス  
ホニペーノ輜重至ルニ及テ其中ニ書牘數封ア  
ルヲ見ルモ之ヲ開カスシテ火中ニ投ス而シテ  
戦後國人ノ屍ヲ曠原ニ晒スヲ觀テ愁憂滿面慨  
然トシテ歎シテ曰ク嗚呼コハ骨山血河ハ慘状  
アラシムルモハ國人ハ自ラ取ル所ナリト其  
意蓋シ敵ノ罪ヲ赦シ稱シテ義ト為スモノ、如  
シ

(古) ホニペーノ末路命運已ニ窮マレリ三十年  
來百戦必ス勝チ洛國ノ大權ヲ左右スル久シ而  
シテ一朝派落ノ人ト為リ執威身ヲ離レ累々ト  
シテ喪家ノ狗モ營ナラス叙々其妻コル子リア  
ヲ携ヘ二三ノ從者ト共ニ遁レテ埃及ニ至リ身  
ヲプロトレミ一ニ寄セ以テ庇護ヲ仰ク曾テ其先  
王ヲ弑ケタルノ縁ニ因ルナリ然ルニプロトレミ  
川忘恩無道終ニコル子リアノ眼前ニ於テ之ヲ  
殺サシメ其屍ヲ砂漠ノ中ニ投セシム從者拘束  
ヲ免ハハノ後チ更ニ之ヲ火葬シ其地上ニ銘ヲ

書シテ曰ク其功業當ニ一壯廟ヲ建ツヘキモハ  
今僅ニ一墳墓ヲ得ルニ告ムト是ヨリ先キセ  
ルサル急進ボンペーヲ尾撃シテ埃及ニ至ル  
トレミ一其首級ヲ呈スセーサル正視スル能ハ  
ス坐ニ舊交ヲ追懐シテ潸然涙ス乃チ壯麗ノ  
墓碑ヲ建テ以テ其名ヲ不朽ニ傳フ

(五) 當時埃及王プトレミー及ヒ其妹クレオパ  
トラ並ニ位ニ在リクレオパトラ兇奸大志アリ  
其名特ニ著ハル兄ヲ除キ獨リ自ラ王權ヲ專握  
セント欲スセーサルソノ天資嬌艶ナルニ迷溺

シ枉テクレオパトラノ言フ所ヲ容レプトレミ  
一ト戰テ之ヲ殺シ埃及ヲ略ス一時セーサルク  
レオパトラト相携ヘテ日ニ放佚ヲ事トス會ミ  
スリデートスノ子パルナセス叛シ己ニコルチ  
一ス及ヒアルメニアヲ掠スルヲ聞キ電馳シテ  
國ニ歸リゼラニ戰テ一擊之ヲ夷ク乃チ其平定  
ノ迅速容易ナルヲ羅馬ニ報シテ曰ク來リ睇テ  
克ツト其語僅ニ三句  
(六) 既ニシテセーサル倉皇羅馬ニ至ルマ一ク  
アントニ一政ヲ失シ物議恟々タリセーサル數

日ヲ出テス輒ク平和ヲ復ス而シテボンバーノ  
 殘黨相率テ再ヒ兵ヲ亞弗利加ニ舉クケート及  
 ヒスレピオノ共ニ帥ユル所ニシテモーリタニ  
 アノ王ジエバ之ヲ援クセーサル乃チ亞弗利加  
 ニ至リタプレウスニ戰テ大ニ之ヲ破ルケート  
 固クストイツクノ學ヲ信シ深ク共治ノ政ヲ是  
 トスエチカニ退隱シテ沈黙再舉ヲ計ルト雖凡  
 時機已ニ去リテ復タ奈何トモスル能ハサルヲ  
 悟リ卒ニ自歎ス

(七) 亞弗利加ノ役已ニ畢ルセーサル再ヒ羅馬

ニ還リ大ニ凱旋ノ盛典ヲ舉ク儀四日ニ涉リ第  
 一日ハゴールノ征服ヲ祝シ第二日ハ埃及ノ掠  
 略ヲ賀シ第三日ハ亞細亞ノ戰勝ヲ頌シ第四日  
 ハジユバノ敗軍ヲ讚ス而シテ老功ノ將士府民  
 ヲ賞スル優渥ナリ公筵ヲ開キ民ヲ饗スルニ象  
 鬪及ヒ步騎對抗ノ餘興ヲ以テス客ヲ迎フノ車  
 二萬輛ヲ備フ群客興ニ乘シテ欣然我ヲ忘レ知  
 ラス識ラス固有ノ自由ヲ放棄シ竟ニ其苛虐ヲ  
 甘受スルニ至ル蓋シ上下交相競フテ卑屈媚ヲ  
 獻シセーサルヲ敬稱シテ國祖ト名ケ推シテ終

身全權總領ニ任シ且ツ之ニ元師ノ尊号ヲ呈シ  
天下ニ告クルニ其身神聖犯ス可カラサルヲ以  
テス

(大) セーサル已ニ羅馬ヲ整理スルノ後チ再ヒ  
西班牙ニ至ルラビニウス及ヒポンペーノ二子  
兵ヲ其地ニ募リ以テ逆ヲ謀ルセーサルムンダ  
ニ奮戰シテ慘殺ヲ縱ニス敵兵苦戰一敗地ニ塗  
レポンペーノ餘類是ニ於テ悉ク平ク

(九) セーサル兵カラ以テ羅馬全國ヲ取り尋テ  
其霸業ニ敵スル者ヲ夷ク既ニシテ肅然兵ヲ收

メテ羅馬ニ歸リ遂ニ宇内ノ主宰ト為ル古ヨリ  
英傑ノ霸業ヲ立ツルモノ志ヲ得ルニ及テ其智  
略節度未タ曾テセーサルノ右ニ出ツル者アル  
ヲ聞カスセーサル嘗テ人ニ語テ曰ク予復タシ  
ルラマリウス相鬪フハ慘劇ヲ演スルト莫ルマ  
シ今僅ニ之ヲ追想スルモ猶且ツ慄然胸ヲ刺ス  
カ如シ今ヤ予ニ抗スル者ミナ已ニ歸服ス乃チ  
劍ヲ藏メテ誠意其任ヲ之レ盡シ以テ猶ホ未タ  
服セサルノ徒ヲ感化セシメンノミト咸ク其叛  
徒ヲ赦シ黨與ノ如何ニ關シテ彼我偏頗ノ私ヲ



爲ス<sub>1</sub>ナク專ラ身ヲ國民ノ榮幸ニ委子内ハ以テ弄權ノ幣習ヲ破リ外ハ以テ心ヲ柔遠ノ術ニ用フルノミナラス國曆ヲ改メポ<sub>1</sub>ンチン沼ヲ涸シタイベル河ノ航路ヲ修メ羅馬府ノ壯觀ヲ加フ而シテセ<sub>1</sub>サルノ計畫スル所固ヨリ茲ニ止マラス其志嘉ス可キモノ一ニシテ足ラスト雖氏惜哉天命限アリテ遂ニ果スヲ得ス

(干) マ<sub>1</sub>ーク、ア<sub>1</sub>ントニ<sub>1</sub>セ<sub>1</sub>サルニ説クニ帝位ヲ踐ムヲ以テスセ<sub>1</sub>サル再三之ヲ斥ク會遠近派言アリセ<sub>1</sub>サル竊ニ顯職ニ立テ榮ヲ極メ名

ヲ博セント欲スト而シテ元老院ノセ<sub>1</sub>サルヲ尊崇スルノ甚シキ勲位累々爵祿堆ヲ成ス是ニ於テ心中之ヲ猜忌スルモノ終ニ相率テ黨ヲ結ヒ密ニ弒逆ヲ謀ルセ<sub>1</sub>サル素ト慈仁寛裕ナリト雖氏天下億兆ヲシテ舊時ノ政體ヲ忘却シ霸佔ノ實況ヲ絶想セシムル能ハス逆徒中元老ノ職ニ在ルモノ已ニ六十人ニ下ラスグリウチユス及ヒカツシウス之カ首倡タリ共ニバルサリアニ於テセ<sub>1</sub>サルニ抗シ敗後寛典ヲ以テ死ヲ免ル殊ニグリウチユスハセ<sub>1</sub>サルノ愛顧ヲ受

ケ其恩海嶽啻ナラスト雖氏敢テ此非舉ヲ圖ル  
ニ至ル所以ノモノハ他ナシ其無道ヲ憎テ其人  
ヲ憎ミタルニアラス故ニ奮然トシテ恩愛ノ絆  
繩ヲ絶テ身ヲ重シ國ヲ愛スルノ義ヲ取り毀譽  
榮辱ヲ舉テ後世天下公論ノ定ル所ニ任シタル  
ノミカソシウスハ唯其權勢ノ盛ナルヲ見テ忌  
妬ニ堪ヘス終ニ舊怨ヲ報ント欲スルニ至リタ  
ルナリ

(世) 道路マタ流言アリ全權總領將ニ三月十五  
日ヲ以テ即位ノ禮ヲ行ハントスト逆徒之ヲ聞

キ乃チ其日ヲ期シテ事ヲ發セントスセーサル  
出テ、元老院ニ坐ス刺客忽チ四起シ短劍ヲ揮  
テ之ニ向フセーサル勇奮拒闘スル良久シ瞥然  
ブリウスユスノ刺客中ニ在ルヲ認メテ信友ノ  
己ニ我ニ乖キタルヲ知り駭然疾呼シテ曰ク汝  
ブリウチユスモ、亦ハ叛逆ハ徒カト其言未タ畢  
ラス外袍ヲ把テ自ラ其面ヲ掩ヒ復タ敢テ爭ハ  
ス重傷ヲ負フ二十三從容トシテ瞑目ス嗚呼ゼ  
リウス、セーサル卒ス歳五十六即チゴールヲ征  
服スルノ後チ十四年ニシテ其畢生ノ一大主眼

タル治國ノ大權ヲ執テヨリ僅ニ五月余ニ過キ

ス  
(三) セーサルハ古今ノ英傑ナリ一身ニシテ能

ク三長ヲ兼子史ヲ編ミ武ヲ講シ治ヲ施ス皆ナ  
絶倫ナリ而シテ其ノ國人ノ自由ヲ珍滅スルノ  
一事ニ至テハ誠ニ惡ムベシト雖モ其性行マタ  
嘉ス可キモノ無キニアラス蓋シ其志望固ヨリ  
飽クヲ知ラサルノ失アルモ良才美德自ラ備ハ  
リ天下古ヨリ權ヲ弄シ虐ヲ行フモノ才德共ニ  
セーサルノ右ニ出ツル者アルヲ見サレバナリ

(三) 熟ラセーサルノ經歷スル所ヲ視ルニ殘忍

人ヲ殺スモノ實ニ萬ヲ以テ數フト雖モ敢テ自  
ラ之ヲ嗜ムモノニアラス其ノ偶人ヲ虐スルカ  
如キ志ヲ達スルノ道ニ於テ萬已ムヲ得サルニ  
由ルノミ加之ナラス敵ニ勝テ常ニ慈心ノ厚キ  
ハ希有ノ美德ト謂フベシ人或ハ之カ辯ヲ為シ  
テ曰クセーサル不幸ニシテ衰世ニ生ルト然レ  
モ當時運猶ホ衰凋ニ屬セズシセロケイト及ヒ  
ブリウチユスノ如キ羅馬憂國士中ノ鏘々タル  
モノ輩出シテ顯達其名ヲ博セリ

(廿) セーサル未タ三首政治ヲ組織セサルノ前  
遠ク西班牙ヲ征シ途ニアルプス山中ノ一小村  
ヲ過キ人ニ語テ曰ク予ヤ羅馬第一ノ人タラン  
ヨリハ寧ロ此村第一ノ人タラントヲ欲スト且  
ツ常ニヨリリピツドスノ詩句ヲ口吟シテ曰ク  
天下何レハ日カ正義ヲ破ルハ事アラハ須ク權  
ヲ執ルハ道ニ於テスベシト其意宛モセーサル  
ノ精神ヲ寫シ得テ妙ナリ

(廿) セーサルノ武事ニ長スルヤ古往今來蓋シ  
之ニ優ルモ人莫ルベシ兵衆ミナ恭敬仰慕シテ

誠意之ニ神事ス戰ニ臨テ方ニ失フ可カラサル  
ノ要機ニ至レバ副將ノ之ヲ勵マヌ唯是レ一言  
ヲ以テスルノミ曰ク勢ハヨ哉兵衆セーサル現  
ニ汝輩ヲ視ルト想ヘヨト而シテ兵衆ヲシテ感  
奮生ヲ恣レシムル此一言ニ如クモノナシアレ  
キサンドルハ世子ナリ其位ヲ繼ク固ヨリナリ  
其攻略征服赫然見ル可キモノアリト雖モ要ス  
ルニ先王ノ遺業ヲ承ケテ華奢妖冶ノ國ヲ蹂躪  
スルニ過キスセーサルハ素ト一匹夫ノミ而シ  
テ其榮達ミナ一己ノ力ニ由リ其計畫タル固ヨ

リ議ヲ盡シテ着々度ヲ失セス深慮漸進以テ無上ノ顯位ニ上リ向フ所前ナク百戰必ス勝テ終ニ宇内羸主ノ羸主タルニ至レリ

(其) モルレル曰ク予ヤ常ニセーサルヲ追想シテ情ニ堪ヘサルモノアリ蓋シセーサルノ事ヲ成スヤ僅ニ十四年間ニシテ慄蕃密居ノゴールヲ征服シ而シテ西班牙ニ克ツ前後二回進テ日耳曼不烈顛ニ入り勝兵ヲ帥テ伊太里ヲ過キホンペー偉人ノ權勢ヲ撲滅シ埃及ヲ從ヘパルナセスヲ破リ遠ク亞弗利加ニ航シテケートノ英

名ヲ壓シジユバノ銳鋒ヲ挫キ五十余戰兵ヲ亡フモノ百十九萬二千人ニセロニ亞テ天下第一ノ辯客ト為リ古今未曾有ノ史範ヲ示シ深ク文法并ニ鳥占ノ學ヲ究メテ書ヲ著シ不幸ニシテ天命ヲ全フセサルモ版圖ヲ擴メ公法ヲ定ムルノ大計ヲ遺シテ永ク偉業ノ記念ト爲シタレバナリ乃チ知ル人必スシモ歲月ノ長キヲ要セス其成敗ハ一ツニ之ヲ利用スルノ何如ニ在ルノミナルヲ余竊ニ以テ千古ノ定經ト為スト

(其) 國人セーサルノ弒ニ遭フヲ聞キ駭然驚動

スセーサル固ト霸道ヲ以テ顯極ヲ致シ自ラ威  
 福ノ權ヲ執リタリト雖氏衆庶之ヲ仰テ欣慕セ  
 サルナレ死後其屍ノ流血淋漓タルモノヲ公館  
 ニ露出シマーク、アントニー手カラ其血袍ヲ解  
 テ喪辭ヲ述ヘ丁寧反覆哀情ヲ公衆ニ訴フ其言  
 剴切聽クモノ感激ス乃チ報仇ノ念炎然煥起シ  
 逆徒急匆僅ニ身ヲ以テ城外ニ逃ル  
 (其) マーク、アントニーレピダス及ヒオクタブ  
 ス相議テ大權ヲ分有セント欲シ更ニ第二ノ三  
 首政治ヲ組織ス闔國戰慄シテ其結局如何ヲ窺

フアントニーハ天稟兵事ニ長シ其性放佚ナリ  
 レピダスハ資産富有ヲ極メオクタブスハ一ニ  
 オクタビアニウス、セーサルト稱シ後チオーグ  
 スチユスノ副号アリ即チセーサルノ義嗣ニシ  
 テ其娣妹ノ孫ナリ是時年僅二十有八  
 (其) 三傑相約シテ其敵ヲ殲滅セント欲シ各其  
 近親良友ト雖氏之ヲ殺シテ仇ヲ報ユルノ計ヲ  
 為ス乃チアントニーハ其叔伯ロシウスヲ殺シ  
 レピダスハ其兄弟ポーロースヲ刺シオクタビ  
 スハ其恩人タル名士ンセロニ背キテアントニ

一ノ仇怨ヲ雪カントシボピリウス、レナースヲ  
シテ之ヲ殺サシムシセロハ夙ニ雄辯ヲ以テ著  
ハル時ニ春秋六十四ナリレナースモ亦タシセ  
ロニ舊恩アリ曾テ其慈惠ヲ以テ死刑ヲ免ルア  
ントニ一其首ヲ公館ノ演壇ニ梟ス正人義士之  
ヲ觀テ慷慨涙流ス是ニ於テ羅馬再ヒ修羅ノ街  
ト爲リ慘雲四モニ塞ル爲ニ禍ニ罹リ命ヲ亡フ  
モノ元老三百人武紳二千入其他府民ノ名望ア  
ルモノ慘劇ノ犠牲ト爲ル幾百人ナルヲ知ラス  
(三)　　ブリウスエス及ヒカツレウストレースニ

退避シ兵十萬ヲ募リテ自ラ之ヲ督シ將ニ以テ  
共治ノ舊政ヲ復セントスアントニ一及ヒオク  
タビス大軍ヲ帥テ之ヲ追撃ス其兵遙ニ敵軍ニ  
倍セリ是ニ於テ再ヒ天下ノ安危ヲ一戰ノ下ニ  
決スルニ至レリ兩軍ヒリツピーノ近郊ニ戰フ  
激闘二日ニ涉リ共治黨ノ兵一敗地ニ塗レ羅馬  
ノ自由蕩然消盡スブリウスエス及ヒカツレウ  
ス前約ヲ守リ決然俱ニ自盡シ以テ侮辱ヲ免ル  
(四)　　三首ノ政治已ニ成ルト雖モ各並立シテ長  
ク相和スルヲ得スレピダスハ黜ケラレテ化外

二逐ハレアントニールハクレオパトラヲタルシ  
ウスニ召見シテ其ノ曾テ逆徒ヲ援ケタルノ罪  
ヲ問ククレオパトラ天姿嬌媚錦繡ヲ穿子紅粉  
ヲ粧ヒ壯麗眼ヲ射ルノ輕舟ニ乘テ至ル一笑一  
言スレバアントニール恍惚魂ヲ飛シ茫然トシテ  
其罪ヲ問フヲ忘レ大志一ヒ去テ復タ政務ヲ顧  
ミス日ニクレオパトラト相携ヘテ放佚ヲ事ト  
シ為ニ地ヲ失フ少シトセス是ニ於テ政府天下  
ニ公告シテアントニールヲ國賊ト為スニ至ルア  
ントニール且ツ改メスケレオパトラノ色ニ迷ヒ

終ニ其妻オクタビアヲ去ルオクタビアハ同僚  
オクタビスノ姉妹ナリアントニール忽チオクタ  
ビスト隙ヲ生シ相鬪フニ至ル  
(世) 兩軍大ニアクチウムノ近海ニ戦ヒアント  
ニール及ビクレオハトラ全ク敗レテオクタビス  
獨リ治權ヲ專有スアントニールハ羅馬英傑ノ古  
例ニ效ヒ奮然自盡シクレオパトラモ亦タ俘虜  
ノ辱ヲ受ケ羅馬ニ檻致セラレテオーグスチス  
ノ凱旋ヲ粧フノ具ト為ルヲ欲セス故ラニ毒蛇  
ニ觸レテ死ス



第八章

紀元前三十一年ヨリ紀元後

九十六年ニ至ル

(一)

アクチウムノ一戰ヲ以テ共治政體竟ニ熄  
 ム是時ニ當テオクタビスオーグスチユスト稱  
 シ羅馬全國獨裁ノ君主ト爲リ遂ニ其志ヲ達ス  
 オーグスチユス素ト權威ヲ欲スト雖氏亦タ深  
 ク其危険ヲ來タスヲ慮リ其股肱アグリツパ及  
 ヒメセナスニ諮ルニ後圖ヲ以テスアクリツパ  
 ハ寛政ヲ行ヒ自由ヲ復スルヲ可トシメセナス  
 ハ自ラ威權ヲ殺クノ危クシテ虐政ヲ行フノ利

アルヲ是トシ親ラ皇帝ノ稱号ヲ冠シテ國王タ  
 ルノ全權ヲ行ハ、必スヤ民心ヲ害フノ患ナカ  
 ル可キヲ切論ス

(二)

オーグスチユスメセナスノ議ヲ取ル蓋シ  
 天稟權ヲ欲スルノ甚シキ大ニ其心ヲ獲タルヲ  
 以テナリオーグスチユス陽ニ温和ヲ表シテ人  
 權ヲ重シ且ツ民苦ヲ問フ恃ニ厚シ既ニシテ民  
 心ヲ收攬スルノ後チ百方ソノ術ヲ盡シテ兵衆  
 ノ歸向ヲ維持セント欲ス而シテ竊ニ以為ク政  
 體ヲ一變スルハ得策ニアラス宜ク其性質ヲ更

ムヘキノミト陽ニ共治ノ名ヲ存シテ陰ニ皇帝ノ實ヲ行フ

(三) オীগグスチユスハ兵事ニ長スルノミナラス立法施政マタ共ニ著ハル其名遠ク異域ニ聞ユ其大權ヲ執ルニ及テ一二外征ノ功ヲ奏スルアリト雖氏之ヲ要スルニ在位ノ間昇平事ナク美術ヲ勸肄シ府城ヲ修メ公宇ヲ起シ且ツ常ニ心ヲ全國平和ノ維持ニ留ム故ヲ以テ是ニ至リ又タジヤニウスノ神廟ヲ閉ツ第ニ加國ノ役ヲ開クノ後チ之ヲ第一回トス即チ開府以來第

三回ニ及フモノナリ

(四) オীগグスチユス殂ス壽七十六昌榮治ヲ施ス四十四年ナリ天資英豪ナリト雖氏其曾テ三首政治ノ一員タルニ方テ奸詐殘虐ノ迹歷々證ス可シ懋德永ク千歳ニ垂ル後チ仁ヲ施シ善ヲ行フノ美德アルモ人ミナ以テ真意ニ出テス一ニ政略ニ由ルト為スニ至レリ

(五) 皇帝オークスチユス及ヒ宰臣メセナスハ學藝ノ勸肄ニ於テ共ニ大ニ功アリ故ニ後ノ文化ヲ言フモノ皆必スオークスチユス<sub>ニ</sub>在位ノ時

ヲ稱シテ羅馬文學ノ隆興ヲ追想スルニ至ルビ  
ルザルホラースオビツト及ヒリビノ如キ皆  
ナ當時ノ名士ナリ

(六) オীগスチユスノ時ニ當テ救主ゼレユス  
クライスト生ル之ヲ其著跡トス而シテ正史ノ  
證スル所ニ從ハハ其事正ニオীগスチユス即  
位ノ第二十六年ニ在リ即チ世ノ所謂ル耶蘇紀  
元ニ先ツ四年ナリ後チチベリウス踐祚ノ第十  
八年ニ迨テ救主終ニ十字架上ニ死ス  
(七) チベリウス繼テ立ツチベリウスハオীগ

スチユスノ居リビアノ擧子ナリ夙ニ武才ヲ以  
テ著ハル其位ニ即クヤ施治ミナ溫柔慈仁ヲ表  
スト雖氏幾モナク終ニ其假面ヲ脱シテ真性ヲ  
顯ハシ殘虐惡ム可キモノ多シ曾テオトグスチ  
ユスノ繼保シタル共治ノ變體モ此ニ至リテ形  
影共ニ其跡ヲ絶ツ

(八) チベリウスノ外甥ゼルマニキユス兵ヲ將  
テ日耳曼ニ入り名將アルミニウスト戰テ大ニ  
功アリ國人深ク敬服スチベリウス竊ニ猜忌ノ  
念ヲ生シ人ヲシテ之ヲ毒殺セシム後チ羅馬ノ

武紳セジヤニウスヲ登用シテ宰臣ト為ス信任  
太々厚レセジヤニウス兇暴民ヲ虐ス終ニチ  
ベリウスヲ説テ羅馬ヲ去ラシメ退テカブレア  
ニ入り日夜酒色ニ溺ル是時ニ當テセジヤニウ  
ス威權燿赫大ニ虐政ヲ行フ後チ幾モナク卒然  
謀反ヲ以テ論セラレ昨榮忽チ變シテ令辱ト為  
ル元老院令ヲ發シテ之ヲ刑シ其屍ヲ街頭ニ牽  
搯シテ之ヲ辱シム厥後數年ヲ出テスチベリウ  
ス寵臣ノ弒ス所ト為ル春秋七十八臨御二十二  
年

(九) チベリウス其姪孫カリグラヲ以テ嗣ト為  
スカリグラハゼルマニキユスノ子ナリ踐祚ノ  
始ニ當テ施治寛裕憂國ノ志氣自ラ其事業ニ表  
ハレ人ミナ望ヲ屬ス後チ幾モナク其為ス所暴  
浪痴呆至ラサルナシ擾亂隨テ生ス智力為ニ壞  
レ氣質為ニ變ス臣民之ヲ憎ミ且ツ悔ル甚シカ  
リグラ數棟ノ廟宇ヲ建テ自ラ神ト稱シテ祭ヲ  
行ヒ犧ヲ献セシム又々常ニ殘虐ヲ樂ム酷シ曾  
テ人ニ語テ曰ク願ハハ羅馬億兆ハ人民ヲシテ  
唯一頸タラシム一撃ニシテ之ヲ斷ツハ便フ

レバナリトセンカカリグラヲ評シテ曰ク天コハ  
 ハ人ヲ降シ至大ハ權ヲ以テ至大ハ惡ヲ試ミシ  
 ムトカリグラ竟ニ弒ニ遭フ時ニ歲二十九在位  
 四年ナリ

(十) カリグラノ殂スルヤ元老院乃チ其治ノ舊  
 政ヲ復セントスチベリウス世ヲ治テヨリ以來  
 道德敗頹廢取地ヲ掃フ人々自重ノ念マタ共ニ  
 湮滅ス壞亂實ニ千古未曾有ノ極ニ達セリ而シ  
 テ兵衆ミナ帝ヲ立テント欲スカリグラノ叔伯  
 クロヂユス位ニ即ククロヂユスハマー久アン

トニ及ヒオীগスチユスノ娣妹オクタピア  
 ノ孫ニシテ其性懦弱家人且ツ之ヲ欺ク可ク其  
 行醜猥極ナシ

(十一) クロヂユスノ時ニ當テ著跡ノ見ル可キモ  
 ノハ不烈顛ノ征服ナリ不烈顛王カラクタクユ  
 ス勇奮之ヲ拒クト雖凡竟ニ虜ト為リ羅馬ニ檻  
 致セララル人ミナ其豁達ヲ稱ス街ヲ過テ城市ノ  
 ノ宏壯ナルヲ仰觀シ慨然トシテ歎シテ曰ク嗚  
 呼故郷斯クハ如キハ壯榮ヲ有スル者ニシテ天  
 涯萬里不烈顛ハ茅屋ニ住スルカラクタクユス

ヲ猜忌スルトハ果シテ何ハ心ツヤ

(上)

クロヂユス五后アリ第四后ヲメツサリナ

トス其醜名永ク人口ニ會炙ス放佚任縱竟ニ罪

ヲ得テ死刑ニ處ヤラル後チクロヂユスアグリ

ツピナヲ納レテ后ト為ス其失行マタ先后ニ異

ナラズ終ニクロヂユスヲ毒殺シ以テ其携子ヲ

ロヲ立ツクロヂユス在位十四年春秋六十四

(上)

子ロハ業ヲ學士センカノ門ニ受ク教養道

アリ得ル所甚タ多シ踐祚ノ初ニ當リセンカ及

ヒ侍衛ノ總監ブルヒウスノ輔佐ニ因リ政圖着

々宜キヲ得テ久ク其隆康ヲ維持スルヲ得タリ

後チ幾モナク良相ノ諫ヲ用ヒス放肆欲ヲ縱ニ

シ殘虐人ヲ傷ム其暴前古比ナク永ク霸虐ノ汚

名ヲ千歳ニ傳フ不幸虐殺ニ遭フモノ收擧ニ違

アラス就中其母アグリツピナ其后オクタビア

ポツペア其臣センカフルヒウス及ヒ詩人ルカ

ンノ如キ其最タルモノナリ

(上)

子ロ嘗テ徒ニ火ヲ羅馬ニ縱テ之ヲトロイ

ノ焚燬ニ擬シ自ラ高塔ニ登テ其慘状ヲ瞰ミ以

テ樂トス今ニ於テ人ミナ其暴ヲ惡マサルナシ

煙焰四塞延テ八九日ニ及ヒ府城大半灰燼ニ歸  
 ス當時耶蘇教徒ノ羅馬府内ニ在ルモノ已ニ多  
 シ子口衆庶ノ怨惡ヲ避ント欲シ枉テ其罪ヲ之  
 ニ歸シ以テ殘虐ヲ極ムシントポール禍ニ罹リ  
 斷頭セララル

(五) 子口呆行奢侈以テ人侮ヲ來タシ過錯罪愆  
 以テ民怨ヲ買ヒ衆庶終ニ汝ト偕ニ亾ンノ嘆ア  
 ルニ至ル是時ニ當テビンデツキスゴールニ在  
 リガルバ西班牙ニ在リ密ニ謀テ黨ヲ結ヒ之ヲ  
 廢黜スガルバ子口ノ罪跡ヲ列叙シ慨然公言シ

テ曰ク子口が罪惡ハ大ナル何等ハ苛刑ニ處ス  
 ルモ猶ホ餘アリ佞レ父ヲ殺シ母ヲ殺シ后ヲ殺  
 シ師ヲ殺スノミナラス元老府民郷紳ハ門地財  
 産德行ニ於テ特ニ俊秀ナル者ヲ殲戮セリ其腥  
 血ハ以テ佞レカ身ヲ浸汚セサルカ嗚呼是等不  
 幸ハ人辜ナクシテ命ヲ亡フモ血痕靈アリ叫テ  
 報仇ヲ訴フ今ヤ我黨已ニ用フ可キハ兵器アリ  
 佞レ何人ソ己ニ王ニアラズ唯是レ火ヲ放チ父  
 母ヲ弑シ唱歌演劇以テ惡ヲ樂ムハ獨夫ハ余  
 豈ニ之カ命ヲ奉スル者ハラシヤト元老院乃チ

子口ヲ以テ罪アリト為ス子口之ヲ聞キ自盡シテ捕獲ノ辱ヲ免ル御宇十四年春秋三十二

(去) 子口殂スルノ後チ元老院及ヒ所督ノ將士

ガルバヲ推シテ帝ト為スカルバ勇敢ニシテ才

略アリ德行恃ニ著ハル是ヨリ先キ地方屯在ノ

兵ヲ統轄シテ聲譽甚タ高シ此時齡已ニ七十二

ニ及フ後チ幾モナク其為ス所嚴厲慳吝ニシテ

寵臣往々妄ニ權ヲ弄シ天下怨望ス終ニ賢人ビ

ソヲ以テ嗣ト為スオソナル者アリ嘗テ子口ノ

寵ヲ受ク之ヲ憤テ叛ヲ謀リガルバ及ヒビソヲ

弑スガルバ位ヲ踐ム僅ニ七閱月タシチウス之

ヲ評シテ曰ク若シ斯人ヲシテ帝位ニ登ルナカ

ラシムバ舉世必ス以テ施治ノ度量アル者トセ

ント惜ヒ哉

(去) オソ立テ帝ト為ルビテリウス兵カアリ以

テ之ニ抗スオソ其副將ノ破ル所ト為リ竟ニ自

盡ス在位僅ニ九十五日ビテリウス帝祚ヲ踐テ

ヨリ施治一ツニ子口ヲ學ヒ殘忍放佚以テ衆怨

ヲ買フ當時バスパシアン羅兵ヲ帥テ埃及ニ在

リ兵ミナ之ヲ推シテ帝ト稱ス其參將遂ニ羅馬



ヲ拔クビテリウス立テ未タ一年ヲ畢ヘスシテ  
弒セラル

(六) ベスパンアン元老院及ヒ將士ノ推ス所ト  
為リ遂ニ帝位ヲ踐ム其ノ羅馬ニ入ルヤ衆民抃  
喜シテ之ヲ迎フベスパン卑賤ヨリ出テ偉  
功ヲ以テ顯極ニ立チ其性温厚ニシテ慈心アリ  
且ツ果斷ヲ以テ著ハル世ヲ治ムル十年銳意民  
福ヲ圖ル國人敬服ス亂後專ラ世ノ秩序ヲ復シ  
彼ノ有名ナルアンセーニル圓戲場ヲ建ツ其墟址今ナホ存シ  
テ當時ノ宏壯ヲ証表ス且ツカヲ學藝ノ誘獎ニ

盡ス猶太ノ史家ジヨセフ辯士クインチリアン  
及ヒ博物學士プリニールノ如キ特ニ其德澤ニ浴  
スル者ナリ

(七) ベスパンアンノ時ニ當テ其子チユスゼ  
ルセロムヲ剿滅ス激攻六月遂ニ之ヲ拔キ毀壞  
僅ニ址ヲ殘スノミ復タ一斷礎ヲ見ス恰モ救主  
ノ預言ニ暗合スジヨセフノ記ス所ニ據レハ為  
ニ死スルモノ百萬余人虜ニ就クモノ十萬ニ幾  
シ死ニ瀕シテ未ダ死セサルモノ或ハ遠ク治外  
ニ放タレ或ハ賣ラレテ人奴ト爲リ或ハ散シテ

四方ニ之ク令ナホ各地ニ散居シテ一種異別ノ  
 民族ヲ成スモノ聖經ノ啓示マタ信ナルヲ証ス  
 (三) ベスパンアンノ子チユス繼テ立ツ施政  
 仁義ヲ主トシ寛裕ヲ尚フ國人之ヲ仰テ人類ノ  
 喜樂ト名ク一夕獨リ自ラ一仁ヲ行フナク空ク  
 其日ヲ消センヲ回想シ慨然トシテ歎シテ曰ク  
 嗚呼樂善ハ徒ヨ朕實ニ一日ヲ喪ヘハト其言恃  
 ニ著ハルチチユス位ニ在ルノ日偶々バスビウス  
山噴火シテハルキユラニウム及ヒポンピイノ  
 二府為ニ埋没シ博物學士プリニー之ニ死スチ

チユス 在位三年ニシテ殂ス年四十一人或ハ其  
 兄弟ドミチアンノ毒殺スル所ト為スドミチア  
 ン繼テ立ツ  
 (世) ドミチアン舉止放佚賦性殘忍ナリ人々懼  
 慄スドミチアン自ラ神ト稱シ人ヲシテ之ニ跪  
 拜セシメ且ツ羅馬ノ名士數人ヲ殺戮シ刑ヲ觀  
 テ自ラ樂ム又ツノ學士ヲ國外ニ逐ヒ耶蘇教徒  
 ヲ殘害スル酷シ後チ避世間居シテ不善ヲ行ヒ  
 佚樂ヲ事トスドミチアン居常蠅ヲ拿リ雖ヲ以  
 テ之ヲ刺ス一日客アリ侍臣ニ就テ己ニ來賓ア

リヤ否ヲ問フ侍臣曰ク一羽ハ蠅モアラスト

(三) ドミチアン位ニ在ル十五年竟ニ弒セラレ

其活ノ啖スル所ニ係ル蓋シドミチアン自ラ簿

冊ヲ製シ其將ニ殺サントスル者ノ氏名ヲ載ス

活偶其名ノ記録ニ上レルヲ檢出シ因テ茲ニ及

フナリドミチアン在位ノ日雄將アグリコラニ

救シ兵ヲ帥テ不烈顯ヲ伐タシム連戰大ニ克チ

遂ニ其南部ヲ征服ス之ヲ其著跡トス

(三) ドミチアンハ所謂ル十二セーサルスト稱

スル歴帝ノ末位ニ在リ全權總領ゼリウス、セー

サル之ガ初位ヲ占ム然レモ世間マタオーグス  
チユスヲ以テ初帝ト為シ子ロヲ以テオーグス  
チユスノ末裔ヲ踐ムモノトスル者アリ

第九章 紀元後九十六年ヨリ百八十

年ニ至ル

(一) ドミチアン殂スルノ後キ元老院子ルバヲ

推シテ嗣ト為ス時ニ子ルバ年六十五齒徳俱ニ

備ハリ慈心恃ニ厚シ然レモ全國ノ紛擾ヲ鎮壓

スルノ氣力ナク終ニ位ヲドラジヤンニ禪リ治

世十六月ニシテ殂ス

(二) トラジヤンハ西班牙ノセビールニ生ル羅馬皇帝中至德ノ君主ナリ天稟溫柔自ラ奉ズル質素ニシテ慈仁寛裕ノ氣風ヲ具ヘ武功絶世銳意出征ヲ圖ル常ニ好テ艱苦ヲ冒シ踐祚ノ後ト雖凡徒歩ニシテ兵ヲ督シ親ラ曠野ニ行軍ス曾テ劍ヲ拔テ之ヲ侍衛總監ニ授ケ巖然敕ヲ下シト曰ク朕モシ其任ヲ盡サバ以テ朕ヲ衛ル可ク若シ其職ヲ怠ラバ以テ朕ヲ殺ス可シト元老院其德ヲ稱シテ之ニ至善オクナムスノ副号ヲ呈ス厥後二百余年元老院新帝ヲ祝スル毎ニ必ス幸ヲ以テ世

ヲ治ム宜クオーグスチユスハ如クナルヘク徳ヲ以テ治ヲ施ス宜クトラジヤンハ如クナルヘク歎詞ヲ以テスルニ至レリ

(三) トラジヤンノ時羅馬帝國境域ノ廣且ツ大ナルハ前後ソノ比ヲ見サル所ナリトラジヤン師ヲ出シテダレアパルシアアツンリアメソボタミア及ヒアラビアフエリツクスヲ征服スダシアニ克ツノ日ソノ戰勝ノ功ヲ不朽ニ傳ヘント欲シ碑ヲ建テ名クルニトラジヤンヲ以テス其碑今ニ於テ猶ホ存シ羅馬府内古代奇碑ノ一

ニ居ル

(四) トラジヤン渥ク文學ヲ贊弊スプリニ一冲  
 人<sup>レ</sup>ジエビナル及ヒブルターチノ如キ當時ソノ  
 名特ニ著ハル而シテ即位ノ第二十年ニ於テト  
 ラジヤン卒ニ殂ス春秋六十三國人哀動ストラ  
 ジヤン功ヲ國ニ立ツル固ヨリ偉ナリト雖<sup>レ</sup>氏曾  
 テ耶蘇教徒ノ遭難ヲ顧ミサルハ其心マタ公正  
 ヲ欠クニ似タリ

(五) トラジヤンノ外甥アドリアン繼テ立ツア  
 ドリアン英明雄辯ニシテ施政概子慈仁公正ヲ

主トシ又深く美術ヲ愛スト雖<sup>レ</sup>氏間マタ殘忍放  
 肆ノ僻アルヲ免レス且ツ版圖ノ廣キニ過クル  
 ヲ不利トシ嘗テトラジヤンノ略取スル所ノ地  
 ヲ棄テ復タ攻伐ノ事ヲ思ハス專ラカラ美術ノ  
 勸奨ト國榮ノ増進ニ盡ス而シテ躬親ラ國內各  
 地ヲ巡狩スルモノ十有三年弊習ヲ改メ苛稅ヲ  
 除キ府城ヲ修ム不烈顛ニ在ルノ日島中ヲ横斷  
 シテ長城ヲ築キ以テピツクス族ノ入寇ニ備フ  
 程<sup>レ</sup>カ<sup>レ</sup>ルリスルヨリニウカストルニ至ル  
 (六) アドリアン更ニゼルセルムヲ修メテ其名

ヲエリア、カピトリナト改ム猶太人異徒ノ此新  
 都ニ入テ檀ニ拜跪スルヲ憤リ羅馬人及ヒ耶蘇  
 教徒ノ猶太ニ在ル者ヲ屠戮スアドリアン兵ヲ  
 遣テ之ヲ討ツ府ヲ毀ツ一千余人ヲ殺ス六十萬  
 ニ幾シアドリアンチチウス、アントニウスヲ以  
 テ嗣ト為シ即位ノ第二十二年ヲ以テ殂ス年六  
 十三

(七) チチウス、アントニウス世多クハアントニ  
 ウス、ピウスト名ク位ニ在ル二十三年著跡ノ記  
 ス可キナシ唯ソノ公義私徳ノ俱ニ羅馬史中ニ

顯著ナルヲ見ルノミチチウス常ニ人ニ語テ曰  
 ク千人ノ敵ヲ殺サンヨリハ寧ロ國民一人ノ生  
 命ヲ救ハント以テ自ラ規訣ト為ス

(八) チチウスハ英明ヲ以テ著ハル其婿マルク  
 ス、オーレリウス、アントニウスヲ以テ嗣ト為ス  
 オーレリウスハ學士ゲネラルノ副号アリ固ヨリ異教ヲ  
 信スト雖凡羅馬帝中至徳ノ君タリ當時書ヲ撰  
 スルモノ之ヲ讚シテ曰ク汎ク天下ノ寧幸ヲ圖  
 ル其徳神ハ如シト又タ深クストイツクノ學ヲ  
 信ス天稟ト雖凡亦タ教育ノ然ラシムル所ナリ

其經歷并ニ其著書オールドモナル默思錄ニ於テ明ニ之ヲ証ス  
可シ

(九) チチウス及ヒオーレリウスハ俱ニ其姓アリ  
ントニウスヲ冒シ夙ニ公正慈仁ヲ以テ著ハル  
ト雖正在位ノ間曾テ耶蘇教徒ノ遭難ヲ顧ミサ  
ルモノ、如シジヨスチン、ユルチン初メテ耶蘇  
教辯冤録ヲ著シ之ヲチチウスニ呈スオーレリ  
ウス曾テ羅軍ヲ帥テ戰ニ臨ミ雷雨ニ遇テ厄ヲ  
免ル時人以此テ神奇ト爲シ之ニ雷隊ノ名ヲ命ス  
而シテ是等二帝ノ居ヲ俱ニフオースチナト云

フ其行ミナ放縱ナリ

(十) オーレリウス殂ス在位十九年春秋五十九  
所謂ル仁德オールドモナル五帝ノ末位ニ居ル其ノ殂スルヤ羅  
馬國民復タ振ハス厥後歷代ノ帝王概テ怯弱邪  
僻ニシテ版圖ノ大ナル負荷ニ任ヘズ竟ニ體重  
フシテ自ラ倒レント欲シ外ニハ悍夷境ヲ侵シ  
テ猖獗ヲ逞フシ内ニハ逆黨相鬪テ人心乖離ス  
大道敗壞徳ヲ修メ國ヲ憂フモノ蕩然地ヲ拂ヒ  
文學マタ漸ク衰凋シテ殆ント將ニ煙滅ニ屬セ  
ントス

第十章 紀元後百八十年ヨリ三百零

六年ニ至ル

(一)

オーレリウスノ子コムモドス繼テ立ツコ  
ムモドス舉止放肆其母フオースチナノ性ヲ受  
ケ任縱殘忍子ロト相伯仲ス在位十三年ニシテ  
弒セラルル年三十二ペルチナツク女功ヲ以テ卑  
賤ヨリ舉ケラレ侍衛ノ推ス所ト為リ遂ニ位ヲ  
嗣ク其經歷セル所甘酸浮沈窮ナキヲ以テ時人  
嘲テ之ヲ運命ノ打鞠ト名ク宿弊ヲ矯ムル酷ニ  
過キ天下怨望ス竟ニ其曾テ推ス所ノ者ノ手ニ

弒セラルル在位纔ニ三閱月

(二) 是時ニ當テ兵衆國ヲ投テ人ノ取ルニ任ス

デチウス、ジヤリアニウス則チ之ヲ獲タリ世ヲ  
治ムル五閱月セプチムス、セバルス人ヲシテ之  
ヲ殺サシメ代テ帝ト為ルニゲール及ヒアルビ  
ニウス之ニ抗シテ國ヲ爭ヒ一敗地ニ塗ルセバ  
ルス武功政績俱ニ絶倫ナリト雖氏民ヲ虐スル  
亦タ酷シ不烈顛ヲ征シテ其地ニ石牆ヲ築クソ  
ルウエーノ海門ヨリ日耳曼洋ニ至ル經程幾ン  
トアドリアンノ長城ニ均シセバルス殂ス在位



十有八年

(三) ヤバルスノ二子カラカルラ及ヒゲータ國ヲ争フカラカルラ遂ニゲータヲ殺シテ帝位ヲ踐ム虐政ヲ行フ六年竟ニ弒セラルマクリニウスノ喉スル所ナリマクリニウス即チ位ヲ繼キ世ヲ治ムル僅ニ十有四月ヘリオガバルス人ヲシテ之ヲ殺サシメ遂ニ自ラ代ル

(四) ヘリオガバルスノ位ヲ繼クヤ年僅ニ十四ナリト雖氏其放濫殘虐先代至惡ノ君ト相伯仲ス即位ノ第四年ニ至リ竟ニ弒セラル其間歲月

太ク久シカラスト雖氏塵世ノ快樂一トシテ盡サ、ルナク恬ヲ迎ヘテ之ヲ去ル六人ニ及ヘリ

(五) ヘリオガバルスノ從弟アレキサンドルセバルス繼テ立ツ天資溫厚慈仁ニシテ賢明ナリ前後歷帝ノ暗愚暴虐ナルヲ以テ性行更ニ光彩ヲ加フ治世十四年ニシテ殺サル年二十九マキシミンノ喉スル所ニ係ルマキシミンハトレールニ生ル一牧夫ノ子ナリ民種ハゴス族ニ屬ス繼テ位ヲ踐ム身長八尺五寸體格筋力マタ之ニ準シ且ツ特ニ武略ニ富ム

(六) アレキサンドル、セベルスヨリデオクレチ  
 アンノ時ニ至ルマテ歴帝相繼ク十六世即チマ  
 キシミンマキシミウスバルビニウスゴルヂア  
 ンヒリツプデシウスガリウスエミリアニウス  
 バレリアンガルリニウスクロウヂユスオーレ  
 リアンタシチウスフロリアンプロビウスカリ  
 ウスカリニウス及ヒヌメリアン是ナリ其間四  
 十九年絶ヘテ奇事快聞ノ記ス可キナシ就中在  
 位ノ長カラサルハ上下共ニ其禍ヲ受クルノ甚  
 シキモノナリクロウヂユス及ヒタシチウス以

外ミナ變ニ遭テ殂ス  
 (七) 皇帝バレリアン波斯王サボルト兵ヲ構ヘ  
 敗レテ虜ト為ルサポル之ヲ待ツ凌辱殘忍ヲ極  
 ム馬ニ騎ルニ脚椅ト為シ終ニ挖眼シテ生ナカ  
 ラ其皮ヲ剥カシム  
 (八) オーレリアン世ヲ治ムル僅ニ五年武績特  
 ニ著ハル其ノ戰ニ臨ムヤ下ヲ御スル嚴厲敵ヲ  
 撃ツ迅捷ニシテ勇且ツ略アリ時人之ヲゼリウ  
 ス、セーサルニ比ス當時ゴス族及ヒゼルマン  
 族漸ク覬劍ヲ萌スオーレリアン一撃之ヲ破ル

後マシ大ニバルミトラノ女王ゼノビアヲ破テ  
 之ヲ虜ト爲レ其侍史ロングニウスヲ殺サシム  
 ゼノビア早ニ英明ノ名アリロングニウス亦タ  
 技書ヲ善クスルヲ以テ著ハル而シテオーレリ  
 アンノ羅馬ニ凱旋スルヤ前古未曾有ノ盛儀ヲ  
 張ルゼノビア珍珠夜光累累々身ニ係ケ金鏈ヲ以  
 テ縛セラレ列ニ在テ儀ヲ粧フノ具ト爲ル

(九) デオクレチアンハダルマチアノ人ナリ卑  
 賤ニ生レ功ヲ以テ一兵卒ヨリ起リ榮進シテ大  
 元師ノ高位ニ昇ルカリニウス及ヒヌメリアン

ノ殂スルニ及テ遂ニ帝祚ヲ踐ム實ニ二百八十  
 四年ナリ後チ二年ヲ歷テ親寵マキシミアンヲ  
 シテ共ニ位ニ居ラシメ政ヲ施ス降テ二百九十  
 二年ニ至リ更ニカレリウス及ヒコンスタンチ  
 ニウスヲ舉ケテ俱ニ治ヲ圖ル而シテ此二人共  
 ニセーサルノ号アリ當時天下ヲ四分シ二帝兩  
 ヤーサル並立シテ之ヲ治ム各主治ノ名ヲ有ス  
 ルモ其實權ハ獨リデオクレチアンニ歸ス

(十) 是時ニ當テ耶蕪教徒ヲ殘害スル酷シ延テ  
 數年ニ及フ之ヲ耶蘇教徒難ニ遭フノ第十四回ト

ス即チ局ヲ茲ニ結フモノナリ其慘狀前古比ナ  
ク殆ント子遺無キニ至ル虐主自ラ詫テ曰ク國  
内已ニ耶蘇ハ教名ヲ帶フルモハ亡シト  
(土) デオクレチアン治世ノ末年禍災相踵ク乃  
チマキンミアント與ニ政權ヲ兩セーサルニ讓  
リ遠ク故山ノダルマチアニ退避シ壯宮ヲ營ミ  
居ル一八九年園ヲ耕シ以テ自ラ娛ム常ニ人ニ  
語テ曰ク今日茲ニ在テ其幸ヲ享ルモハ嘗テ帝  
位ニ在テ紫袍ハ華麗ヲ裝フハ日ニ優ル更ニ幾  
クナルヲ知ラスト又夕往々獨リ歎シテ曰ク嗚

呼、今、日、始、メ、テ、自、ラ、生、ケ、ル、ヲ、思、ヒ、且、ツ、天、日、ハ、美、  
ヲ、仰、ク、ト

第十章 紀元後三百零六年ヨリ四百

七十六年ニ至ル

(一) コンスタンチニウス不烈顛ノヨークニ殂  
ス終ニ臨テ其子コンスタンチンヲ嗣ト為スカ  
レリウスモ亦タ四年ヲ經テ竟ニ殂スコンスタ  
ンチンハ偉帝ノ副号アリ咸ク其已レニ抗シ位  
ヲ爭フ者ヲ夷ケ遂ニ天下ヲ專有ス就中マキセ  
ンチニウスノ如キ其首タル者ナリ而シテ史家

往々説ヲ作レテ曰クコンスタンチン兵ヲ帥ビ  
進テ敵ヲ討ツ途ニ十字架ハ蒼穹ニ煌々タルヲ  
拜ス銘ニ之ヲ以テ征セヨノ三字アリ書スルニ  
希臘文ヲ以テスコンスタンチン一ヒ此奇異ヲ  
見テヨリ鋒鏑ノ向フ所戰克タサルナク因テ自  
ラ耶蘇教ヲ信スルニ至レリト

(二) 初メコンスタンチンヲレテ耶蘇教ヲ信ス  
ルニ至ラレメタルモノハ其起因果レテ何等ノ  
事情ニ在ルカ之ヲ詳ニセスト雖氏是ヨリ以降  
厚ク之ヲ崇信シ史編尊稱シテ恃ニ耶蘇教信奉

ノ第一帝ト書ス世ヲ治ムルニ及テ耶蘇教徒ノ  
遭難及ヒ鬪囚ノ戲等ノ如キ事ノ殘酷ニ涉ルモ  
ノ蕩然跡ヲ絶チ宗教史上マタ自ラ一大紀年ヲ  
成ス蓋シ羅馬ノ政府嘗テ耶蘇教徒ヲ殘害スル  
幾クナルヲ知ラズ而シテ今翻然之ヲ待ツ厚キ  
ヲ加フルニ至レリ

(三) コンスタンチン在位ノ日事迹ノ赫著ナル  
モノハ首府羅馬ヲビザンチウムニ遷シ之ヲコ  
ンスタンチノツプルト改稱スルノ舉ナリ即チ  
其名ヲコンスタンチンニ取ルナリ當時羅馬帝

國ノ衰フ日既ニ久シク此舉アリテヨリ愈亡國ノ速ナルヲ致ス至レリコンスタンチン殂ス  
在位三十一年春秋六十三而シテ古今其性行ヲ叙スルモノ十人必ス十異アリモルレ曰クコ  
ンスタンチンノ英明ナル不幸ニシテ倭オアラシムルモ猶且ツ皮相ノ善心ニ富ミ更ニ世潮ノ一新路ヲ開キタルヲ知ル可シ史家往々妄ニ之ヲ評シ溢美過貶一ナラスト雖凡其ノ能ク武名ヲ以テ多年昇平ヲ維持シタルハ功績ハ赫然トシテ羅馬歴帝中當ニ大書特筆スベキモノナリト

(四) コンスタンチン天下ヲ五分シテ三子ニ甥ニ讓ル即チコンスタンチン弟二世コンスタン  
ス及ヒコンスタンチウス弟二世ハ其子ナリ後チ數年ヲ由テスレテ季子コンスタンチウスノ外咸ク弑セラレコンスタンチウス乃チ獨主治ヲ專ニス  
在位二十四年帝權振ハス不祥相踵ク外夷北ニ入寇シテ波斯人東境ヲ侵シ全國漸ク疲弊ス  
(五) コンスタンチウスノ從弟ジュリアン繼テ立ツ反教者ノ副号アリ初メ業ヲ耶蘇教徒ノ門

ニ受ク而シテ翻然異教ニ化シタルヲ以テナリ  
ジユリアン才學絶倫マタ自ラ英傑ノ質アリ但  
タ深ク妄説ニ迷ヒ邪神ノ跪拜ヲ復シテ耶蘇教  
徒ヲ虐シ更ニ猶太人ノ來聚シテ再ヒ其神廟ヲ  
建ツルヲ允ス會廟下ノ地中ヨリ火毬噴出シテ  
事遂ニ止ムト云フ當代ノ事ヲ叙スル者往々此  
説ヲ作スジユリアン即位ノ第二年ヲ以テ波斯  
ト兵ヲ構ヘ之ニ死ス年三十二

(六) ジヨビアン其位ヲ繼キ耶蘇教ヲ復シ且ツ  
アザナレウスヲ召還ス曩ニジユリアンノ逐フ

所ト為リタル者ナリジヨビアン在位纔ニ七月  
ニシテ殂スバレンチニアン推サレテ帝位ニ登  
リ東部ノ屬地ヲ其弟バレンスニ讓リ並立シテ  
政ヲ施ス是ヨリ羅馬帝國終ニ東西ニ分レ外夷  
相踵テ四境ヲ侵シゴス族己ニ居ラトリースニ  
占ム

(七) バレンチニアンノ子グラチアン繼テ立ツ  
バレンスノ殂スルニ及テセオドシウスト並立  
シテ治ヲ為スセオドシウス後チ偉帝ノ副号ア  
リグラチアン及ヒ其弟バレンチニアン弟二世

殂スルノ後チ獨リ專ラ之ヲ治ム在位ノ間耶蘇  
教確立シテ全國異教ノ迹ヲ絶ツセオドシウス  
英明敏達奮テ外夷ヲ攘ヒ施政著々宜シキヲ得  
テ國運ヲ既ニ衰ヘタルニ挽回ス羅馬帝國ノ東  
西兩部ヲ並治スル末帝ナリ世ヲ治ムル十六年  
其子オノリウス及ビアルカヂウス繼テ立ツオ  
ノリウスハ西部ヲ治メアルカヂウスハ東部ニ  
帝タリ

(八) オノリウス及ビアルカヂウス懦弱壯氣ニ  
乏シ外夷各地ニ割據シテ漸ク其力ヲ養フゴス

族ノ酋長アラリツク風ニ名聲アリ兵ヲ率テ來  
リ侵シ竟ニコンスタンチノツプルノ城下ニ逼  
ル希臘全國マタ之カ爲ニ震動スアラリツク鋒  
ヲ轉シ大舉シテ伊太里ニ入ル羅馬將スチリコ兵  
ヲ督シテ迎ヘ戰ヒ大ニ之ヲ破ルスチリコノ死  
スルニ及テアラリツク再ビ來リ寇ス援兵三十  
萬アリ伊太里ノ都城ヲ拔キ劫掠ヲ縱ニスル一  
ニシテ足ラス終ニ營ヲ羅馬ノ城前ニ布ク嗚呼  
コノ大都多年宇内ノ治ヲ主リ數世敗國ノ掠貨  
ヲ以テ富盛ヲ致セリ而シテ今饑疫並ヒ至リ存



亡且夕ニ迫レリ

(七) 饑害既ニ其極ニ達スルニ及テアラリツク  
羅馬ニ入りオノリウスヲ廢レ兵士ヲシテ縱ニ  
府内ヲ劫掠セシムルコト六日間其暴至ラサル  
所ナシアラリツク軍中ニ令シテ曰ク宇内ハ財  
帛菟メ盡シテ咸ナ茲ニ在リ令汝輩ヲシテ縱ニ  
之ヲ取ラシム但タ抗セサル者ヲ傷ムル勿レ道  
レテ寺堂ニ入ル者ヲ殺ス勿レト  
(十) 後チ幾モナクアラリツク死シゴス族更ニ  
アトウルフスヲ推シテ之カ長ト為スゴールノ

南部ヲ略シ山ヲ超ヘテ西班牙ニ入り自ラ國基  
ヲ創ス

(土) アラリツク羅馬ヲ焚掠スルノ後チ未タ數  
年ナラス匈奴境ヲ侵シ暴掠ヲ縱ニス其王アツ  
チラノ帥ユル所ナリ匈奴ハ一種ノ蕃民ナリ其  
先サイレニアニ出ツアツチラ狂狼時人恐レテ之  
ヲ天神ノ宮ト名ク既ニシテ東帝國ヲ蹂躪シ兵  
五十萬ヲ率ヒ轉シテゴールニ入ルチユス原族  
未ト名ク羅馬ノ羅軍ヲ帥ヒセオリリツクゴス族  
ヲ督シ合從締シテ大ニ之ヲカロシスノ曠原

ニ破ル而シテゴス族死スルモノ無慮十六萬ヲ  
 下ラスアツチラ此敗ヲ意トセス幾モナク伊太  
 里ヲ侵シ猖獗ヲ極ム遂ニ猛進シテ羅馬ノ府門  
 ニ逼ルバレンチニアン第三世竟ニ其妹オノリ  
 アヲ以テ之ニ妻ハレ且ツ巨額ノ粧奩ヲ贈リ以  
 テ和ヲ成ス而シテアツチラ幾モナク死シ天下  
 始メテ未曾有ノ阨ヲ免ル蓋シアツケラノ世ニ  
 在ルヤ武斷狂猛歐土ノ民一日モ其堵ニ安スル  
 ナクアツチラモ亦タ嘗テ自ラ樂ムノ日アルナ  
 シ

(上)

バレンチニアン第三世弒セラルボトロニ  
 ウス、マキシミウスノ嘆スル所ナリマキシミウ  
 ス乃チ帝ト為ルバレンチニアノ后エオドキ  
 シアバندگان族ノ王ゼンセリツクヲ迎ヘ因  
 テ以テ所天ノ仇ヲ報ントスゼンセリツク陰ニ  
 異心アリ此機ニ乘シテムールス族及ヒバنگ  
 ルス族ヲ率ヒ大舉シテ伊太里ニ上陸シ遂ニ羅  
 馬府ヲ拔ク蕃兵狂暴劫掠ヲ極ムル十有一日曩  
 ニアラリツクノ焚掠ヲ免レタル名器珍寶ニシ  
 テ文藝ノ模範ヲ後世ニ傳フヘキモノ此ニ至リ

テ復タ些子ヲ留メス

(十三) バレンチニア<sup>ン</sup>殂シテヨリ以來西帝國疲弊甚シク延々僅ニ存ス九帝相承ク二十一年竟ニ四百七十六年ニ至リ末帝ロムルス、オーグスチユルス位ヲヘルリー族ノ酋長オドアセルニ讓リ國亡フオドアセル自ラ伊太里王ト稱ス是ヨリ羅馬ノ記事盡ク伊太里ノ史乘ニ屬ス

(十四) 嗚呼ユノ大國ノ亡フル斯クノ如シ嘗テ銳鋒以テ環宇ヲ併吞シ精勵以テ開智ノ基ヲ創シ質素ヲ以テ起リ文華ヲ以テ倒レ愛國ノ精神一

到シテ國本ヲ固フシ版圖ヲ擴メ遂ニ四海億兆ヲシテ洽ク羅馬國民ノ虛稱ヲ被ラシムルノ日ニ迄テ忽諸タリ悲夫

第十二章

ヘルリー族ゴス族及ヒロムバート族伊太里ヲ略シテ國ヲ立ツ 千四百五十二年東帝國亡フ

(一) ヘルリー族ノ伊太里ニ建國スルヤ僅ニ七年ニシテ亡フオストロゴス族即チ東部ゴス族ノ王セオドリツク<sup>セゲレト</sup>偉王ノ副号アリオドアセルト

戰テ之ヲ殺シ遂ニ伊太里全國ヲ掌握シテ帝王ト爲リ親ララベンナニ居ルゴス統ノ第三世セオドチユスジヨスチニアンノ參將バリサリウスト戰テ敗死スジヨスチニアン乃チ羅馬ノ主宰ト爲ルトチラオストロゴス族ヲ奮闘シ遂ニ大權ヲ回復スト雖氏後チ六十四年ヲ經テナルセスノ破ル所ト爲ルナルセスベリサリウスヲ紹キ伊太里ヲ治ムル十三年

(二) ジヨスチニアンノ後嗣ジヨスチン第三世ナルセスヲ廢スナルセス乃チロンバード族ノ

王アルボインヲ説テ怨ヲ報セント欲スアルボイン國中ヲ蹂躪シテ遂ニ之ヲ略シ立テ王ト爲リパピアヲ以テ國都ト爲スロンバード族ノ伊太里ヲ略シテ國ヲ開テヨリ列王相繼ク二十二世存立二百六年即チ七百七十四年ニ至リデシテリウスチヤールマンノ破ル所ト爲ル後チ伊太里竟ニ西方ノ新帝國ニ屬スセオドレウス偉王ノ殂落ヨリロンバード族ノ伊太里ヲ略定スルニ至ルマテ禍害相踵ク亦是レ史上ノ慘狀ヲ極ムルモノナリ

(三) ゴス族ハ元トスカンヂナビアニ出ツ客ヲ待ツ優厚且ツ俠氣善ヲ行フヲ以テ著ハル嘗テアラリツク兵ヲ率テ羅馬ヲ略スルノ日粗ホ已ニ耶蘓教ヲ信セリオストロゴス族ヲ東部ゴス族ト云ヒビシゴス族ヲ西部ゴス族ト云フ皆ソノ名ヲ所在ノ地方ニ取ルナリヘルリ族ハゴス族ニ出テロンバード族ハスカンヂナビア及ヒ日耳曼ノ北方ヨリ起ル

(四) 東帝國一ニ希臘帝國又ハ公斯坦丁堡帝國ト名ク外夷ノ蹂躪ヲ受クル猶ホ西帝國ニ於ル

カ如シト雖氏克ク之ヲ拒キ其存立ノ久シキコトニスタンチンノ國ヲ開テヨリ一千百有余年ニ至ル奇事著跡ノ記ス可キナシ

(五) 東帝國ノ旺盛ヲ極メシハ實ニ第六世紀ニ在リジヨスチニア人成ハ偉帝ト名ク在位年久シク當時ノ法律大家トリボニアラシテ有名ノ法典ヲ編成セシム歐洲近世ノ法律ミナ之ニ起因スト云フ

(六) ジヨスチニアノ位ニ在ルヤ當時ノ名將バリサリウス及ヒナルセス波斯人ノ入寇ヲ拒

キバンダルス族ヲ逐テ亞弗利加ヲ復シ又タジ  
 ス族ヲ伐テ伊太里ヲ取リ屢大ニ悍夷ヲ破ルジ  
 ヨスチニアシントソヒアノ寺堂ヲ創建ス今  
 ヤ其寺田教ノ神廟ト為ル爾後歷帝相承ケ大ニ  
 學藝ヲ贊獎シ銳竟以テカヲ興學ニ盡シ漸ク暗  
 世ノ不文ヲ啓ク然レモ其性行多クハ懦弱ニシ  
 テ華奢放佚ヲ極ム

(七) 遷都以還羅馬教王公斯坦丁堡ノ總救ト權  
 ヲ爭ヒ終ニ教政分レテ西教即チ羅馬教東教即  
 チ希臘教ノ二派ト為ル而シテ其事顯然數世ノ

史乘ニ歷出ス

(八) 千二百零四年十字軍アリ役ニ從フモノ公  
 斯坦丁堡ヲ掠取シ其首領ブランドル侯バルト  
 ウインヲ推シテ國帝トス五帝相紹テ之ヲ治ム佛  
 蘭統アリ拉丁統アリ降テ千二百六十一年ニ至  
 ル其間希臘統ノ帝王ナイスヲ以テ首府トス  
 (九) 千四百五十三年コンスタンチン十二世位  
 ニ在リモハノツ弟二世トルクス族三十萬ヲ率  
 テ公斯坦丁堡ヲ圍ミ遂ニ之ヲ拔キ劫掠ヲ縱ニ  
 ス東帝國竟ニ亡フ是ヨリ公斯坦丁堡猶ホ土耳

其政府ノ在ル所ト爲ル

第十三章 羅馬ノ故事

(一) 羅馬政府ノ顯官及ヒ民等ノ起源性質ノ如キハ前章既ニ之ヲ詳述セリ

(二) 史家多クハハリカリナシウスノディオニシウスニ據リ此國王政ノ大成ニ於テ功アル者ハ彼ノ牧夫亡命ノ巨魁ロムリウスナリトス然レモ羅馬政府モ亦夕歲月ノ久シキ星移リ物換リ幾多ノ政變ヲ經テ始メテ成就セルト他邦ノ例ニ異ナラサル必セリ

(三) 初メロムリウス民種ヲ分テ三族二等トス

族二十部アリテ等ニ縉紳庶民ノ別アリ後チ更ニ之ヲ細分スルニ至ルセルビエス、チユルリウス、第<sub>一</sub>四族ヲ設ケテ之ニ加フ而シテ此四族ヲ名ケテパラチン族ソブルラン族コルラチン族及ヒエスクイリン族ト云フ皆ソノ所在ノ地名ニ因ルナリ後チオードグスチユス府内ヲ分テ十四區トス

(四) 區畫ヲ定ムル已ニ斯クノ如クナルモセルビニス、マタ府民ヲ分類シテ六等ト爲シ更ニ之

ヲ細別シテ百類トス即チ府民ノ小部ヲ成スモ  
 ノナリ其人員百ヲ以テ成ルノ故ニ爾云フニア  
 ラス戰時百人ヲ役出スルノ義務アルヲ以テナ  
 リ而シテ六等ミナ其財産ノ多寡ヲ以テ之ヲ分  
 チ至富ノ民ヲ第一等トシ極貧ノ者ヲ第六等ト  
 ス人負最モ多シ當時百類ノ總數百九十三アリ  
 ト云フ

(五) 後チ縉紳庶民ノ二族ニ騎紳カウエドノ一族ヲ加フ  
 騎紳ハ視官ノ侍撰ヲ以テ之ニ任シ公費ヲ以テ  
 一騎馬一金環ヲ供ス之ヲ舉クル縉紳庶民ノ別

ナク年齒十八ニ達シテ資産三千二百二十九磅  
 ニ及フ者ヲ取ル

(六) 羅馬民等ノ種別ハ茲ニ止マラス貴族イェリアリ  
 即チ其祖嘗テ大憲審司視官若クハ車上監工官  
 ノ職ニ在リテ且ツ立像ノ權ヲ有スル者ナリ新  
 民スベアリ其先マタ往時上文述フル所ノ顯職ニ立  
 ツ者トス賤民シラアリ自ラ像ヲ立テ又ハ祖先ノ為  
 ニ建像スルノ權ナキ者ナリ且ツ其父母始終自  
 主ノ權アリタル者ヲ良民ト云ト云ヒ嘗テ人奴ト爲  
 リ後チ自由ノ人タルヲ得タル者ヲ釋民リタルト云フ



(七) 所謂ル羅馬府民トハ獨リ府ノ内外ニ在ル者ヲ指稱スルニアラス普ク伊太里ノ各部并ニ海外治下ノ諸都ニシテ其民固有ノ羅馬人ト同等ノ權ヲ有スル者ヲ總稱スルナリ

(八) 奴隸ハ身人家ニ仕ヘテ時ニ或ハ工商ノ業務ニ使役セラレ不幸憫ムヘキノ民種ナリ主人ノ之ヲ待スル任縱意ノ如ク宛モ無心ノ器財ヲ弄スルニ均シ公市ヲ張テ之ヲ賣買ス戰時俘囚ト爲リ若クハ奴隸ノ家ニ生レ若クハ刑律ニ觸レタル者ヲ以テ之ニ充ツ

(九) 國王。羅馬ノ國王ハ獨裁世襲ニアラスシテ定憲公撰ナリ元老院及ヒ人民ノ允准ヲ經ルニアラサレバ法律ヲ定メ和戰ヲ決スルヲ得ス白袍金冕并ニ象牙ノ圭璽ヲ以テ職識ト爲ス坐スルニ象牙ノ椅子ヲ用ヒ出入必ス十二人ノ前導ヲ從ヘ職識ヲ把ラシム

(十) 元老院。初メ元老院ハ百名ノ議員ヲ以テ成ル後チタルクイン老王更ニ之ヲ増員シテ三百人トス降テ共治政體ノ壊解ニ迫フコロ一千余人ニ至ル始ハ國王ノ特撰ヲ以テ之ヲ舉ケ中

コロ大憲之ヲ撰定シ終ニ視官ノ撰任ニ歸ス會  
期ハ一月三回ヲ以テ常例トスレ凡特ニ事アル  
ニ當テ臨時ニ之ヲ開ク亦少シトセス一令ヲ  
發スル必ス元老院過半ノ議負己ニ之ヲ可決シ  
保民官マタ之ヲ是認スルニ至テ始メテ元老院  
ノ發令ト稱ス時人元老ヲ呼テ國父ト名ク其年  
齒威風共ニ超秀シテ國ニ盡スノ厚キ慈父モ帝  
ナラサルヲ以テナリ彼ノ縉紳ノ名ハ之ニ起因  
シテ生ス當初元老院ヲ組織スル者ミナ縉紳ノ  
一族ニ止マリタレバナリ

(土) 文武百官 共治政體ノキ羅馬ノ百官ミナ

公撰ヲ以テ之ヲ舉ク其未タ撰ニ當ラサル者ヲ  
候補ト名ク蓋シ衆庶ノ投票ヲ求メテ補セラレ  
ンテ候ツノ間白袍ヲ衣ルヲ以テナリ

(土) 羅馬ノ官吏ハ之ヲ分テ三種トス曰ク常時  
官曰ク非常官曰ク地方官是ナリ常時官ハ之ヲ  
撰任スル必ス一定ノ期アリ共治政體ノキ始終  
之ヲ設ク大憲視官保民官監工官及ヒ檢稅官ノ  
如キ之カ首位ヲ占ムル者ナリ非常官ハ國亂急  
變アルニ當テ之ヲ置ク全權總領騎兵長什官保

民武官及ヒ攝政官ノ如キ是ナリ地方官ハ即チ職ヲ地方ニ奉スル者ニシテ始ハ審司之ヲ務ム後チ大憲ノ任滿チテ督邑ト為リ審司ノ職ヲ畢ヘテ地方ノ官衙ニ仕フル者及ヒ檢稅官副將ノ如キ皆コノ列ニ入ル

(五) 大憲グランドコンスタブルハ其職國王ニ均シク但夕冠冕ヲ用ヒサルノミ而シテ其職權各負幾ント相異ナルトク在任一年ヲ以テ期トス一朝危急存亡ノ秋ニ際セハ獨裁專斷ノ權ヲ有ス之ヲ授クルニ當リ語クルニ嚴旨ヲ以テス其言ニ曰ク今コ

ハ大憲ヲシテ國ニ盡スハ重任ヲ負ハシメ此國ヲシテ復タ害毒ヲ受クルナカラシムト且ツ大憲ノ職ニ就カント欲スル者ハ其年四十三ニ達スルヲ要ス

(六) 審司ジャストル 審司ハ其格位大憲ニ亞ク大憲外ニ在レバ代テ訟ヲ聽ク常ニ民會ノ議長ト為リ事變アルニ際シテ元老院ノ議員ヲ召集シ且ツ時ニ或ハ公戲ヲ行フノ地ニ臨監ス其數始ハ僅ニ一人ニシテ中ユロ二人ト為リ後チ更ニ増員シテ數名トナル

(五) 視官。視官ノ職ハ其權大憲ニ及ハサルモ其榮却テ大憲ノ上ニ出ツ每五年二名ヲ撰任ス第五年毎ニ民籍ヲ案查スルヲ以テ主務トス已ニ案查シ畢レハ必ス國民ノ名格ヲ以テ贖罪ノ祭ヲ練武場ニ行フ其儀肅然タリ

(六) 保民官。初メ保民官ノ職ヲ設ケタルハ唯是レ縉紳ノ專横ヲ制シテ庶民ノ保安ヲ計ルニ在リ然レモ歲月ノ久シキ其威權漸ク熾ナルヲ致スニ至レリ

(七) 監工官。監工官ハ其職公宇浴室溝渠道路

并ニ市井等ヲ監督ス故ニ此名アリ之ヲ分テ二種トス一ヲ民撰監工官ト名ケ保民官ヲ輔佐ス一ヲ車<sup>キヤリール、エジール</sup>上監工官ト云ヒ公戲ニ臨監ス

(八) 檢稅官。檢稅官ハ其職國租ヲ管掌スルニ在リ民撰ヲ以テ之ニ任ス當初其數僅ニ二人ノミ後チ更ニ數名ヲ加フ檢稅武官ハ職ヲ軍隊ノ中ニ奉シ兵士ノ俸給ヲ掌理ス檢稅地方官ハ大憲若クハ審司ニ陪從シテ地方ニ至リ稅貢ヲ徵收ス

(九) 民會。羅馬全國ノ人民相會シテ發言投票

スルモノヲ公會ト名ク而シテ其別三様アリ曰ク民種會曰ク百部會曰ク族類會是ナリ法律ヲ議定シ官吏ヲ撰任シ和戰ヲ議決シ罪人ヲ紮彈スルニ際シ政府コノ公會ヲ召集ス

(二) 民種公會ハ羅馬居住ノ府民ニシテ三十部ニ種別セルモノ相會シ多數ノ同准ヲ以テ凡ソ事ノ樞要ニ涉ルモノヲ議決ス

(三) 百部公會ハ民藉法ニヨリ百部ニ類別シタル民種ノ大會ニシテ大憲審司及ヒ視官ヲ撰任シ大法ヲ議定シ謀反ヲ審訊シ兼テ開戰ヲ公告

公會ハ練武場ヲ以テ之ニ充ツ苟モ羅馬府民タルモノハ都鄙ヲ論ヤス總テ臨會シテ其各部ニ關スル發言ヲ爲スノ權ヲ有ス

(三) 族類公會ハ地區ヲ以テ族類ヲ分別シタル民族ノ會議ニシテ僚屬祭司ヲ撰任シ及ヒ立法審紀ノ事ヲ掌ル

(三) 公會ノ存立綿々七百余年而シテゼリウスセーサル及ヒオリダスチユスノ時ニ至リ開會ノ自由ヲ制限シ撰官ノ權利ヲ人民ト分有セリ後チチベリウス人民官吏ヲ撰任スルノ公權ヲ

珍奪ス

(廿) 祭司。牧師ミストルハ羅馬府民ト區分シテ未夕判然タル民等ヲ成サスト雖凡之ヲ舉クル必ス國中ノ顯族賢哲ニ取ル祭司フジトニシテ或ハ汎ク百神ニ事フルアリ或ハ特ニ某神ニ服事スルアリ而シテ其百神ニ汎事スル者ノ中ニ就テ監僧卜僧儀僧書僧及ヒ饌僧ノ如キ之ガ顯要ニ立ツ者ナリ民撰ノ祭司長アリ之ヲ總理ス

(廿) 監僧ガシキイハ定員十五名ニシテ教政上百般ノ告訴ヲ審判シ聖饌祭祀等ノ庶務ヲ整理シ及ヒ屬

僧ノ行跡風儀ヲ監察ス祭司長ガシキイハ位高ク權大ニシテ在職終身祭司ミナ其部下ニ立ツ

(廿) 卜僧オウケヒハ定員十五人ニシテ職權甚タ大ナリ後事ヲ預言シ夢ヲ占ヒ讖ヲ傳ヘ兼テ異事ヲ解ク且ツ行為ノ吉凶ヲトスルヲ以テ任トス而シテ其來事ヲ占トスル要スルニ五法アリ或ハ雷電ノ如キ天象ニ據リ或ハ鳥雀ノ鳴飛ニ據リ或ハ雞雛成育ノ良否ニ據リ或ハ走獸ノ舉動形狀ニ據リ或ハ噴嚏躑躅現怪等日常見聞スル所ノ事狀ニ據ルモノ是ナリ

(世) 儀僧ハ献祭ノ儀獸ヲ視察シ其狀況ニ因リテ事業ノ成敗ヲトシ併セテ将来ノ吉凶ヲ占トスルヲ以テ職トス而シテ之カ兆証ヲ求ムル必ス獸臙焔煙其他祭祀ノ情况ニ取ルナリ

(共) 書僧ハ定員十五名ニシテ三部ノ識書ヲ監守ス是レタルクイン傲王ノ時ニ當テ一異婦ノ授クル所ニ係リ書中羅馬帝國ノ命運ヲ録セリト云フ之ヲ石匣ニ藏メテ政堂ノ下ニ保存ス

(苙) 鑊僧ハ定數七人ニシテ公戲賽會其他肅儀ヲ行フキハ聖鑊ヲ整備シ又兼テ監僧ニ陪輔ス

(辛) 凡ソ神ニ事フル特ニ各其祭司アリ之ヲ特僧ト名ク即チジヨビトルマルスパンヘロクルス及ヒサイベレーノ諸神ヲ祭ル者ノ如キ之カ首位ヲ占ムル者ナリベスタ神ヲ祀ルニハ別ニ之ヲ司ルノ淑女アリ

(世) 羅馬人ノ神ヲ拜スルト僧設クル所ノ祠堂ニアラサレバ必ス小林ノ中ニ於テシ祈誓シテ犠牲ヲ獻ズ

(世) 祝節 一月ニハジヤニウス神ヲ祝シ二月ニハパン神并ニ死者ノ靈魂ヲ祭り三月ニハ老

婦ノ宴ヲ開キ兼テミチルバ神ヲ祝シ四月ニハ  
 セレース神ヲ祭リ十二月ニハサチユルシ神ヲ  
 祀リ以テ公筵ヲ張ル其盛著ナル之ヲ第一トス  
 其他祝節ノ種類枚舉ニ遑アラヌ  
 (三) 公戲。 競車競馬角力競走馬上ノ戲搏野獸  
 ノ格闘騎歩ノ演習并ニ海軍ノ對抗ノ如キ皆ナ  
 大戲場ニ於テ之ヲ公行ス  
 (四) 闘囚。 闘囚ツギナヒトハ兵又ヲ以テ公戲場中ニ毆  
 闘シ以テ衆民ノ觀樂ニ供スルモノナリ羅馬開  
 府ノ第四百年ニ及フコロ始メテ此格闘ヲ行ヒ

終ニ國人ノ愛觀スル所ト為ル當初俘囚奴隸及  
 ヒ罪人ヲ以テ之ニ充テタリト雖モ末世國風ノ  
 衰頹ヲ極ムルニ及テ身良家ニ生レタル府民或  
 ハ元老ニシテ且ツ斯ノ危戲ヲ行フノ醜体アル  
 ニ至レリ而シテ此慘劇ニ於テ人命ヲ損フ幾百  
 ナルヲ知ラス曾テトラジヤンダシヤニ克チ之  
 ヲ行テ衆觀ニ供スル百二十三日其間各種ノ獸  
 類ヲ殺ス一萬一千頭闘囚ノ相毆フモノ一萬人  
 ニ及ハリト云フ  
 (五) 凱旋。 凱旋トウワラトハ戰勝ノ將士嚴然列ヲ成シ



テ府門ニ入り揚々政堂ニ至ルノ壯儀ニシテ羅馬國中<sup>馬</sup>之ヲ以テ武榮ノ極ト為ス故ニ雄將ノ力戰捷ヲ制シテ顯赫ノ偉勲ヲ立テ或ハ屬地ノ多キヲ加ヘ或ハ困難ヲ將ニ至ラントスルニ制シタル者アル毎ニ必ス之ヲ行フ羸軍列ヲ成シテ練武場ヨリ進行シ公街ヲ經テ政堂ニ至ル毎街花ヲ粧ヒ祭壇ニハ香ヲ焚ク伶人蟻牛之カ前ヲ為シ掠物俘虜之カ中央ニ在リ而シテ羸將身ニ燦然タル金紫ノ壯服ヲ著シ頭ニ八月桂ノ冠冕ヲ戴キ其修飾美ヲ盡シテ之カ後ヲ爲ス

(英) 衣服 羅馬ノ衣服ニシテ就中ソノ較著ナルモノハ長袷及ヒ袷襦ナリ長袷ハ羅馬府民ノ獨リ衣ル所ニシテ寬裕長袷以テ全軀ヲ蔽ヒ袖ナク褶アリテ其容姿優美壯嚴ナリ又夕剛袷ナルモノアリ男子十七歳ニ至テ之ヲ衣ル袷襦ハ袷襦ナリ白色ノ毛布ヲ以テ之ヲ製ス前面膝ヲ下ル少許ニシテ背後ハ脚ニ中シ一條ノ帶ヲ以テ之ヲ腰邊ニ結束ス

(英) 餐膳 羅馬人第一ノ餐膳ヲ夜餐ト名ケ午後三時ニ迨フコロ之ニ就ク其華奢近世珍膳ノ

遠ク及ハサル所ナリ上古ノ質素ナル麵包并ニ  
 野菜ヲ以テ常食トシタレ氏其漸ク遠近ヲ征略  
 シテ富盛ヲ致スニ及テヤ上下交奢侈ニ流レ捨  
 掠ノ貨以テ飲食ノ欲ヲ縱ニス往昔ハ坐食ヲ專  
 ラトシ後世ハ美床ニ倚ル飲料ハ常ニ葡萄酒ヲ  
 用ヒ之ニ混スルニ冷水若クハ香料ヲ以テス  
 (共) 公館 公館フオリウムハ府内第一ノ公堂ニシテ規模  
 宏壯結構長方ナリ館内敞通シテ隔障ナク民會  
 ヲ開キ審判ヲ行ヒ及ヒ公務ヲ執ル必ス茲ニ於  
 テス四面ニナ弧頭ノ門樓アリ樓内マタ廣堂ア

リ私事ヲ審理スル所ナリ  
 (苑) 練武場 練武場カラスエスタスハ其義ヲ軍神イノカミノ營野ニ取  
 ル即チ府外ノ一曠原ニシテタイベル河畔ニ在  
 リ羅馬少壯ノ輩ヲシテ鬪力武戲ヲ行ヒ兼テ兵  
 器ノ操法ヲ學習セシムル所ナリ顯人名士ノ肖  
 像點々場内ニ星列シ牌樓碑柱門樓等建造ノ隆  
 宏ナルモノ彼此相望ム

西史學要卷之三 終





